

令和5年度

研修集録



秋田県立羽後高等学校

目 次

巻 頭 言

「教育ICT化の現在」 校長 平川 研

1 各教科の重点目標・具体的実践事項・改善点および次年度への課題

① 国語 ②地歴公民 ③数学 ④理科 ⑤保健体育
⑥ 芸術 ⑦英語 ⑧家庭 ⑨情報 ⑩商業 1

2 相互授業参観・指導主事等訪問研究授業・協議会

・令和5年度 授業研修について 11
・相互授業参観のまとめ 12
・指導主事等訪問 研究授業・協議会 開催要項 17
・国語科学習指導案 国語科：奥山 栄子 18
・理科学習指導案 理 科：佐藤絵里子 20
・国語科研究協議会 22
・理科研究協議会 24
・全体会 26

3 研修講座

・A-12 教職5年目研修講座
. 佐藤 悠也 30
・A-22 中堅教諭等資質向上研修講座
. 佐藤絵里子 31
・A-22 中堅教諭等資質向上研修講座
. 富谷 朋子 35

4 本校普通科デジタル探究コースの取り組み

デジタル探究委員会 38

5 令和5年度 東北六県商業教育研究大会（会計分野）

商業科 佐藤 悠也 44

令和に入り、G I G A スクール構想の下、教育の I C T 化が急速に進められてきましたが、その方向性等について振り返ってみたいと思います。2018年の P I S A の調査を見ると、日本の子どもたちが、授業で I C T を活用している割合は、O E C D 加盟国中最下位でした。一方、チャット、メール、ゲーム、ニュースなどで I C T を利用する割合は O E C D 加盟国平均を遙かに超えていました。つまり、日本では I C T 機器は遊びの道具であり、学習に役立つものではありませんでした。そこで、ご存じの通り、令和元年、文部科学省は G I G A スクール構想を掲げ、一人一台端末を整備し、教育の I C T 化を目指すことにしました。この間、新型コロナウイルス感染症による臨時休校等の対策として、構想の前倒しにより、学校の I C T 化は急速に進みました。その後、現在のように生徒に一人一台端末が整備され、授業等でも活用されるようになりました。本校でも、I C T を効果的に活用する授業づくりに取り組んできましたが、最近クロムブックを使う頻度が減ってきたという声も聞かれるようになり、少し停滞感が見られるようです。

今年度の本校生徒に対する授業アンケートでは、「もっとクロムブックを使った学習をしたい」という意見もあり、クロムブックに対する期待や教育効果は大きいと感じています。一方で、外部が行った最近の教師向け調査では、一人一台端末は「効果がない」「不便になった」という回答が約3割ほど見られます。理由として、「ネットワークの脆弱」「生徒の不適切利用」「機器の使い方指導の困難」等があげられていました。また、「実践されたことが地域や校内で共有されていない」こともあげられ、I C T 活用のノウハウ共有の仕組みが必要という指摘もあります。学校での I C T 活用も大分進み、対面での授業も平常に戻った今、I C T 化の趣旨をもう一度考えてみる必要があると思います。

G I G A スクール構想の根本には、日本の I C T 活用の遅れの他、Society5.0の考え方があります。Society5.0とは、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く5番目の社会で、新しい価値やサービスが人に豊かさをもたらす新たな社会です。これにより人々のくらしや働き方が変わり、今後、半数近くの仕事が自動化され、多くの子どもたちが今は存在しない仕事に就くとされています。このような社会の変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い、よりよい社会や人生の創り手を育てなければなりません。これが、現学習指導要領改定の趣旨でもあり、情報活用能力を学習の基盤と位置づけ、I C T を活用した学習の充実が示されています。

一方で、I C T を用いても、授業をデザインするのは教師一人一人であり、教師の感性や嗅覚の差が生徒の成長に影響することには変わりはありません。活用技術のみに走るのではなく、生徒と向き合い、生徒の学びの状況をしっかり把握しながら、何をどのように教えるべきかを考える姿勢は、これまで同様に問われると思います。「生徒たちの学びを深めるため」ということを、教師の基本として抑えておく必要があるのではないかと思います。我々も慣れない中、必死で取り組んできて、優れた実践も蓄積されてきているところだとは思いますが、しかし、ここで、日本の教育の位置づけ、Society5.0の考え方に立ち返り、教育での I C T の効果的な活用について、今一度点検してみることも必要ではないかと思えます。

1 各教科の

- ・ 重点目標
- ・ 具体的実践事項
- ・ 改善点および

次年度への課題

- ①国語 ②地歴公民 ③数学
- ④理科 ⑤保健体育 ⑥芸術
- ⑦英語 ⑧家庭 ⑨情報 ⑩商業

1 今年度の重点目標

- （1）言語に関する基本的知識を身に付けさせ、表現や思考の基礎となる国語力を養う。
- （2）伝え合う学習活動を通して、相手の考えを正しく理解し、自分の考えを適切に伝えることができる能力を育成する。

2 具体的実践事項

- （1）・教材中の語句の意味調べを十分に時間を割いて行い、語への理解を深めさせるとともに、語彙の強化を図った。
 - ・週末課題を範囲とした小テストを定期的に行い、語彙を増やすことに努めた。また、ICTを活用した漢字学習も行った。
- （2）・ChromeBookを使って調べた内容をグループ内で発表し合い、代表が全員の前で発表する活動を通して、話す力・聴く力の伸長を図った。
 - ・授業の中で、全員が発表する機会を繰り返し設定して、「自分の考えを話すこと」への抵抗感を軽減するように努めた。

3 改善点及び次年度への課題

- （1）・調べた意味をもとに、教材中の文章をわかりやすく言い換える学習活動があってもよかった。
 - ・辞書を引くときに、文脈に沿った語句の意味を考えことができる力を付けさせたい。
 - ・漢字の書き取りについては、やはり筆記が不可欠である。
- （2）・文章読解にもグループでの話し合いをもっと活用すべきであった。
 - ・意見発表をした際に、お互いが適切な評価や助言ができるような意識付けが必要であった。

1 今年度の重点目標

- (1) 基礎的知識を身につけさせ、自ら学ぶ姿勢を育成する。
- (2) 社会的事象を、複数の視点から捉えようとする姿勢を養う。

2 具体的実践事項

- (1) 電子黒板を資料集として活用した授業を展開できた。とくに、授業内容に関連する動画の視聴時間を増やした。
- (2) 授業の初めには、すべての授業で、前時の振り返りをペアワークで実施した。授業中の質問も、個人で考えさせるよりも、複数の生徒で相談しながら解答できるようにした。
- (3) 定期考査では時事問題として、大きく報道されたニュースを出題することで社会に目が向くように促した。

3 改善点及び次年度への課題

- (1) 授業で使用した資料は、電子黒板で表示したり、プリントアウトして配ったが概ね好評だった。
- (2) 生徒がクロームブックを使う活動がほとんどなかった。指導する側の大きな課題である
- (3) 定期考査における時事問題へのモチベーションは低かった。社会に関心を持たせるための更なる工夫が必要である。授業の中で、ニュースを扱う時間を設けてもよいかもしれない。
- (4) 来年度から全学年が新カリに移行する。政経のコマ数が2から3に変更するので、授業内容や扱う順番を再考する必要がある。

1 今年度の重点目標

- (1) 学習の仕方等の指導を通して学習意欲を向上させる。
- (2) 自ら学習する習慣を身に付けさせ、考える力と問題解決能力を育てる。

2 具体的実践事項

- (1) 全学年で、基本計算を問題とした週末課題・長期休業課題に取り組ませた。週明けの最初の授業では小テストを実施した。
- (2) スタディサプリを利用し、復習問題や確認テストを実施した。
- (3) 就職試験対策として、一般常識やSPIの問題演習を実施した。

3 改善点及び次年度への課題

- (1) どの学年においても基本的な計算力が不足しているので、継続して取り組んでいく必要がある。一方、上位層を伸ばす手立てについても今後考えていきたい。
- (2) 自ら学習する習慣を身につけさせることが、本校にとって長年の課題であると感じている。進路意識を高めさせることが、自ら学習する態度に繋がると思うので、生徒に進路を意識した声かけなどをしていきたい。
- (3) 観点別評価について、科内で協議し、統一性を図っていきたい。

1 今年度の重点目標

- (1) 基本になる定理、法則の理解と定着を図る。
- (2) 観察や実験を通して、科学的思考力・表現力を育成する。

2 具体的実践事項

- (1) 中学校で学んだことを復習しながら、学習内容と関連付けて授業を進めた。また、ペアやグループで話し合ったり、教え合ったりすることで知識等の理解・定着を図った。
- (2) 学校敷地内の自然を観察し、身近な事物にも科学的な思考ができることに気づかせたり、観察した事物について表現させたりする機会を設けた。定期考査では学習内容と自身の生活に関わることについての作文を出題し、科学的思考力と表現力を育成しようとした。

3 改善点及び次年度への課題

- (1) 授業においては意欲的に学び、理解に努める生徒が多いものの、理科において家庭での学習習慣がほとんど確立していない。生徒に大きな負担にはならない程度の課題を出すなどの工夫が必要である。
- (2) 生徒に科学的に思考することの楽しさを感じさせる工夫が必要である。科学的に思考できるような発問や教材の扱い方などにより興味を引きつけて主体的に学び、自身の考えを表現できるような力を身につけさせたい。
- (3) 長期休業中に実施しているワクワク理科実験教室を今後も継続させるためには、町内の小中学校の理科の先生にも協力していただくなどの連携強化が必要ではないかと考えている。

1 今年度の重点目標

- （1）生涯にわたって継続的に運動に親しむ資質を養う。
- （2）健康・安全について学習したことを実生活で活用する態度を育てる。

2 具体的実践事項

- （1）選択種目（班）ごとに、自分たちの現状に見合った目標設定とその実現に向けた計画立案を行った。その際、学習ノート（スプレッドシート）や日々の振り返り（フォーム）の記入についてクロムブックを活用した。計画立案と振り返りは、目的を意識した活動につながっていた。
- （2）感染症予防や生活習慣、環境問題など、身近な問題を自分たちの課題として意識できるようにするため、クロムブックを活用した意見交換（ジャムボード）や動画視聴を積極的に行った。

3 改善点及び次年度への課題

- （1）学習の締めくくりとして3年生の最後に行う「競技会」をスムーズに実施するためにも、2時間続きの時間を確保したい。
- （2）学習内容と実生活が直接リンクするような单元もあるため、今後もより具体的な指導を心がけたい。

1 今年度の重点目標

- (1) 音楽の良さを味わい、教養について考える力を養う。
- (2) 音楽的に幅広い活動を通し生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。

2 具体的実践事項

- (1) 歌唱表現について
マスクをしたままなので発声や口形などの歌唱指導は難しかったが、歌詞の意味やリズムなどの音楽の外枠を考え、少しでも歌うことに興味を持てるようにした。
- (2) 器楽表現について
主に篠笛で和楽器の特性や奏法、地域の伝統音楽について学びながら演奏することができた。
- (3) 鑑賞について
電子黒板で動画を見せることにより日本の伝統音楽、世界の諸民族の音楽などの感想をクラスで共有しあえた。文化の多様性について考える機会になったようだ。
- (4) 創作について
GoogleのSONGMAKERアプリを使い偶発的な作曲・創作を体験させる段階から、リズムやメロディの仕組みを理論的に考える方向に進歩させることができた。

3 改善点及び次年度への課題

- (1) 歌う楽しさを自覚させ、声を出すことへの抵抗感を解消する。
- (2) 楽器の基礎的な奏法の理解と楽典基礎知識の継続的学習。
- (3) グループ活動の効果的な使い方を考える。
- (4) 生徒が答えるのをできるだけ気長に待つ。

1 今年度の重点目標

- (1) 自分の考えや気持ちをその場で考えて伝え合うことができる力を育てる。
- (2) 基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、資格取得に努める。

2 具体的実践事項

- (1) 各レッスンで自分の考えなどをまとめる活動を取り入れ、ペアやグループで発表させる活動を多く取り入れた。
- (2) 英語検定は、意識向上のため、3級以上の受験としている。
- (3) スタディサプリや週末課題、自学ノート、小テストなどを行い、基礎学力向上と自学の習慣の育成に努めた。
- (4) ALTとのTTで英語を使用する場面を設定したり、CAN-DOリストに基づいて計画的にパフォーマンステストを実施した。

3 改善点及び次年度への課題

- (1) 基礎学力の定着に向けて、学習習慣の育成に努める指導を継続するとともに、既習事項を用いた output の機会を積極的に活用して定着を図る。
- (2) 県主催の英検 I B A の結果より、英語検定の3級で合格できる力をもつ生徒が年々減少していることが判る。中学の既習事項の取りこぼしが多いように感じられるので、CAN-DOリストの到達目標も変更する必要があると感じている。
- (3) パフォーマンステストでは、特に2年生に個人差があり、いわゆる「できる生徒」への学習満足度を上げられるような目標設定を考慮しなければならない。

1 今年度の重点目標

- (1) 自立して生活を営むために必要な知識と技術を習得させる。
- (2) 多様な価値観を認め合い、協働して学習する態度やコミュニケーション能力を育てる。

2 具体的実践事項

- (1) 食物調理技術検定・被服製作技術検定取得を目標とすることで、根気よく学習・実技練習する習慣や自分の力で取り組む態度、授業を休まない態度を育てることができた。また、事例や画像・動画資料をクロムブックで提示することで生活体験の不足を補って授業を進めた。
- (2) クラスメイトとの協働学習や地域と連携した学習を充実させ、ソーシャルスキルを実践的に学ぶことができた。家庭での実践や個々に調べた内容をプレゼンし合い、個別の学びと協働的な学びの一体的な充実を図るように心がけた。今年度は、男性教員に家庭科を担当してもらったり、男性の食育ボランティアさんや保健師さんに教わったことも性別役割分業意識や価値観の形成において良い刺激になったと思う。

3 改善点及び次年度への課題

- (1) 家庭基礎の限られた授業時数で、学習指導要領の内容を効果的に学習するために複数の分野を関連付けた単元構想を考える。
- (2) 地域資源を活用した学習から得た成果を地域に発信したり、還元したい。
- (3) 来年度の2年生から食物調理技術検定のみ全員受験となる。生活文化コースの特色や進路希望に応じた検定について考える。

1 今年度の重点目標

- (1) 情報が現代社会に及ぼす影響について考え、理解する力を育てる。
- (2) 情報機器等を効果的に活用し、コミュニケーション能力や情報の創造力・発信力等を養う。

2 具体的実践事項

- (1) デジタル探究支援事業として、外部講師による講義を実施した。
(ZOOM、ドローン、WEBサイト、メタパス、VRゴーグル、プログラミング、生成AIなど)
- (2) インターネット、スマートフォン、SNS、情報モラルなど、生徒が生活の中で接している事項について、様々な問題点や考え方の多様性を授業内で共有することができた。
- (3) 情報処理検定、ビジネス文書実務検定等の資格取得に向けて、しっかりと取り組むことができた。

3 改善点及び次年度への課題

- (1) スマートフォン、SNS、タブレットの使い方等、さらにモラル教育を図る必要がある。
- (2) タイピングや各種のソフトウェアの基本的なスキルを確実に身に付けさせたい。
- (3) パイソンによるプログラミング教育について、学習内容や指導方法等を検討・研究していきたい。
- (4) 新学習指導要領の完全実施に合わせ、学習内容・授業展開・学習評価等を検討・実践していきたい。

1 今年度の重点目標

- (1) ビジネス社会の一員としての心構えや、自ら学ぶ姿勢や態度を育てる。
- (2) 商業に関わる基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、各種検定の資格取得に努める。

2 具体的実践事項

- (1) 実社会で必要とされる心構えや知識・技術の習得に向けた授業を行うことができた。
- (2) 電卓・情報処理・簿記・ビジネス文書の各検定の資格取得を目標にして、ICT機器を活用しながら、効果的に学習指導することができた。
- (3) 課題研究では、昨年度まで行ってきた「羽後学」をもとに、地域の活性化や地域貢献を軸に学習活動を実施した。

3 改善点及び次年度への課題

- (1) 各種検定について、受験級が上がることで、生徒の意識や学習内容の定着率が下がらないよう、ICT機器を活用した魅力ある授業を展開すること等、今後も授業の工夫・改善を図っていきたい。
- (2) 卒業後、実社会で即活用できるような知識や技術等、より実践的な学習の場を提供できるようにしたい。
- (3) 新学習指導要領の完全実施に合わせ、学習内容・授業展開・学習評価等を検討・実践していきたい。

2 • **相互授業参観**
(9/11~19)

• **指導主事等訪問**
(10/25)

研究授業
教科協議会
全体会

1. 相互授業参観について

①期 間 9/11 (月) ~ 19 (火)

- ②実施形態
- ・全ての教員が他の先生方の授業を2コマ以上参観する。
 - ・参観に際しては、前もって参観したい授業の先生にお願いする。
 - ・見学後、「授業参観シート」に良かった点・参考になった点や感想等を記述して授業者の方に渡す。
 - ・この「授業参観シート」は、研修・図書情報部の「相互授業参観」フォルダにも保存する。

※ 「授業参観シート」は次のフォルダにあります
分掌用フォルダ→研修・図書情報部→1研修部→相互授業参観

授業者へ		授業参観シート				
月	日	曜日	校時	年	組	教科名:
授業者:		先生		参観者:		
よかった点 参考になった点	.					
感想等	.					

2. 指導主事訪問時の研究授業について

①研究主題

「生徒が主体的に学びに向かい、課題意識力を身に付けることができる授業の実践」

②期 日 10/25 (水)

・授業参観 ・研究授業 ・教科協議会 ・全体会

③研究授業の実施教科 国語科、理科

※ 校内の教員のみで実施し、全ての教員が授業参観・教科協議会に参加する

令和5年度 相互授業参観期間のまとめ

実施期間：9月11日（月）～9月19日（火）

【国語】

3年 現代文B

指導者 奥山

よかった点・参考になった点

- ・ 授業がテンポ良く展開されていたことが印象的です。生徒達の動きがスムーズなところから、普段から繰り返し実施されてきた小テストであり、採点の仕方や前に出るところなど生徒達が主体的に参加する姿が参考になりました。
- ・ 副教材が授業でしっかり利用されている点も、自分の授業で取り入れたいところです。私の場合、「買わせっぱなし」「解かせっぱなし」にしている節があり、活用できていない状況を改善できずにいました。授業内でしっかり副教材に時間を割く必要を改めて感じ、反省しているところです。

感想等

- ・ よく耳にする四字熟語は、自分で自分自身のことを残念に思うくらい読めなかつたり書けなかつたりしますが、就職や進学の試験を目前に控えた三年生ならではの授業内容で、担任としては本当にありがたく感じました。生徒達の家庭学習において、四字熟語やこの小テストに向けた学習を目にします。少しずつでも、自分たちの力にしてほしいと思っています。いつもご指導ありがとうございます。

【地歴公民】

3年 地理A

指導者 小川

よかった点・参考になった点

- ・ 前時の振り返りをペアで行わせ、しっかり確認してから本時の内容に入っていた。
- ・ 生徒に配付しているプリントが、とても見やすい。
- ・ 地図や画像、ネットの記事など、適宜使用していて変化があり、生徒が集中して取り組んでいる。

感想等

- ・ 生徒一人ひとりの得意分野を把握して、その力を発揮させるような指名のしかたや授業の進め方になっていて、生徒は達成感を得られると感じました。
- ・ 全く抵抗なくペアワークができていて、日頃の取り組みの成果だと感じました。
- ・ 板書がすっきりしていて見やすかったです。自分の板書も、もっと工夫したいと思います。

よかった点・参考になった点

- ・ 学習の成果を発表する場（学校祭のステージ発表）を設定し、目標を持って活動させているところが参考になりました。実技の場合、目標がないと技術の向上を目指す意欲が持続しなかったり、ある程度できれば満足してしまうので、参考にさせていただきます。
- ・ 順番に呼び出して実技指導をされていました。苦手な生徒に掛かりきりで、できる生徒を見てあげる機会が少ないので改善したいと思いました。

感想等

- ・ 楽器未経験の生徒もチャレンジしていることが嬉しかったです。
上手い下手を気にせず安心して挑戦できる学習環境が整っているからだと思います。
部活に入っていない生徒も充実感や自信が持てている感じがします。
活躍の場をつくっていただき、ありがとうございます。

よかった点・参考になった点

- ・ 生徒の動かし方が上手だと思いました。生徒の座席を移動させるなど、飽きさせない工夫が見られた。
- ・ 生徒を指名するテンポがスピーディだった。生徒は集中していないと理解できないと思います。

感想等

- ・ はじめに生徒を立たせて、正解を出した生徒（またはその列）から座らせる方法は、地歴公民科の授業でもまねしたいと考えていますが、英単語ほど答えさせる分量も多くないので、方法を思案中です。

よかった点・参考になった点

- ・ ペアで話をするところ。お互い笑顔でしっかり声を出していた。
- ・ 本時の予定を黒板に書いていたところ。何をやるのか分かっているのはいいことですね。
- ・ 先生の元気さが生徒にも伝わっていたこと。
- ・ 褒め言葉が多く、生徒をやる気にさせていたこと。
- ・ 電子黒板を存分に活用していたこと。

感想等

- ・ 生徒が活発に活動している様子を見て普段から授業が楽しいんだろうなと思いました。今日はほんの少ししか見学できず申し訳ありませんでした。
- ・ 明るい授業でした。生徒も意欲的に取り組むことができている、時間があつという間に過ぎていたのではないかと感じました。ありがとうございました。

【家庭】

3年 フードデザイン

指導者 富谷、三浦

よかった点・参考になった点

- ・ 各グループの発表が終わり次第に、コメント・感想や講評を設けていたが、その方が分かりやすいと感じ、参考になった。（自分の授業においても発表の場面があるが、コメントや講評をどのタイミングに入れれば良いか、いつも検討するため。）
- ・ 時間配分がちょうど良く、日頃の授業内での生徒の動きや、この発表に向けた練習での調整が、入念にされていると感じた。

感想等

- ・ 座学の様子とは違い、色んな表情を見られるのが実技の良いところだと感じた。特に、恭平の生き生きとした声の出し方や、蒼麻・愛音・優衣の息の合った読み方、ほのかとまなのパフォーマンス、などは聞き入れることができた。
- ・ 個人的に、絵本が好きだし、読み聞かせに興味がある。講評の中で、大人向けの本の紹介があり、嬉しかった。

【家庭】

3年 子どもの発達と保育

指導者 三浦

よかった点・参考になった点

- ・ 2年生に3年生の読み聞かせを見せるというのは、双方にとって良い刺激になっていると感じました。次年度も、3年生の発表を事前に見せて、2年生に絵本選び、読みの練習をさせることを検討したいと思います。
- ・ 外部講師の先生を招いての発表会というだけでなく、事前にアドバイスをもらっていたようだったので良かった。
- ・ 生徒が堂々と発表していた。
- ・ 記録用紙に良かった点だけでなく、アドバイスを記入する欄もあったので良かった。

- ・ 保育選択の2年生にも参加させていた（同じく読み聞かせ授業を経験した後なので自分たちの読み聞かせについても客観的に考えることができたと思う）のは2年、3年双方にとって効果があったと思います。
- ・ 読み聞かせに聞き入って楽しみました。講師の先生方のアドバイスは自分の授業にもあてはまる部分が多く、勉強になりました。
- ・ 班ごとに、発表→生徒の感想→講師の先生からの講評という流れで進んでいくことで、生徒一人ひとりにしっかりとフィードバックされていた

感想等

- ・ 3年生の発表態度が立派で2年生に良いお手本を示してくれました。読み方も、聞き手が楽しめるように工夫を凝らしていて素晴らしかったです。2年生は「自分が好きな本」を選び、「読む」ことに一生懸命でしたが、「相手に読み聞かせる」という視点をもっている3年生はさすがだと思いました。
- ・ 読み聞かせ発表会を参観させていただきありがとうございました。外部講師の先生を招いての発表会というだけでなく、事前に講師の先生方からアドバイスをもらい、それを改善する形の発表会だったので、講師の先生方を上手く活用できていると感じました。
- ・ 生徒が恥ずかしがらずに堂々と発表していたのが印象的でした。通常の数学の授業の時とは違う一面を見ることができ楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 音楽の授業も「表現」が大きなテーマになるので興味津々でした。のびのびと自分の思いを表現できる環境ができていて素晴らしいと思いました。読み聞かせは「間、声色、抑揚、表情、リズム」など考えながら「伝える」努力をしなければならないのでとても頭を使う学習だと思います。本校の生徒に必要な要素だと思いました。
- ・ 全員が発表するということが、主体性をもって活動できていたと思います。
- ・ 生徒全員が物怖じせずに、前向きに取り組んでいると感じました。
- ・ 2年生が見学していて、感想を言ってもらえたこともよかったですと思います。三浦先生が2年生に「次当たるよ」と耳打ちして心の準備をさせていたこともよかったですと思います。

【商業】

2年 簿記

指導者 佐藤悠

よかった点・参考になった点

- ・ ホワイトボードへの板書が整っていて、見やすくわかりやすい。
- ・ 問題演習において電子黒板を使用していたが、文字が書ける機能を使っている点良かった。その記入した内容をプリントアウトすることもできることが便利だと思った。
- ・ 生徒らの学習に向かう姿勢が良かった。

感想等

- ・ 生徒らは、ちょっとした話を聞き漏らすとわからなくなってしまうという危機感をもって授業に向かっていた。そんな緊張感がよく伝わってきたし、本当に丁寧にわかりやすく説明したり、板書したりしているのが良く、生徒らもそれに答えるべく真剣になっているのだと感じた。

【総合的探究】

1年 羽後学

指導者 慶應義塾大学SFC

よかった点・参考になった点

- ・ 本時のルールを確認するところが参考になりました。
- ・ アイスブレイクの活動にて、いろいろな生徒とかかわれるようにしているところがいいと思います。
- ・ ファシリテーターや、補助をする人たちが恥ずかしがらずやり切れるところ。交わろうとしている姿が良かったと思います。

感想等

- ・ 体を動かす体操のようなダンスのようなところから、自分を解放できている生徒もいて良かったと思いました。自分からは人と関わるのが苦手な生徒も、声をかけられやすいアイスブレイクを担っていたと思います。声を発せずに行う童話をもとにした即興劇は、やはり恥ずかしがらずに行えたチームのほうが良い出来だったと思います。最後のダンスも含めて楽しい活動でしたし、生徒も楽しそうにやっている姿が印象的でした。

令和5年度 指導主事訪問 研究授業・協議会

主 題 「生徒が主体的に学びに向かい、課題意識力を身に付けることができる授業の実践」

- (1) 「本時の目標」を掲示し、教員・生徒が共通した見通しを持つ。
- (2) 生徒に課題意識を持たせ、それを解決に結びつけるような工夫を凝らした授業展開にする。
- (3) 「振り返り」による自己評価や相互評価の活動を、場面や方法を工夫して取り入れる。

期 日 令和5年10月25日(水)

日 程 13:25～14:15 5校時 授業参観(全体)
 14:15～14:30 SHR・準備(当該クラス以外の生徒は放課)
 14:30～15:20 6校時 研究授業
 15:20～15:30 移動・準備
 15:30～16:10 教科別研究協議会
 16:15～16:55 全体会

助言指導 高校教育課 主任指導主事 櫻田 瑞子(国語)
 高校教育課 指導主事 山城 崇(理科)
 秋田南高等学校 教育専門監 村上 まゆみ(学校保健)

授業一覧

教科	科目	単 元	学年・組	会 場	授 業 者
国 語	国語表現	4 自己PRと面接	2年A組	2A教室	奥山 栄子
理 科	科学と 人間生活	3章 生命の科学 2節 微生物とその利用	1年A組	1A教室	佐藤絵里子

教科協議会について 会次第 ①授業者から感想・課題等
 ②授業参観者から感想・質問・意見等
 ③指導助言

教科	会 場	指導助言者	司 会 者	記 録 者
国 語	会 議 室	高校教育課主任指導主事 櫻田 瑞子	高橋 潤	松井 智彦
理 科	図 書 室	高校教育課指導主事 山城 崇	照井 雅孝	三浦 杏太

国語科（国語表現）学習指導案

日 時：令和5年10月25日（水）6校時
場 所：2年A組教室
対 象：普通科2年A組（24名）
指導者：奥山 栄子
教科書：「国語表現」（大修館書店）

- 1 単元名 相手に効果的に伝わるように工夫しながら自己PRをしよう
- 2 単元の目標
 - (1) 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解することができる。
【知識及び技能】
 - (2) 「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫することができる。
【思考力・判断力・表現力等】
 - (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
【学びに向かう力、人間性等】
- 3 単元について
 - (1) 単元観
本単元は、自分自身のこれまでや現在を見つめ、それを他者にわかりやすく表現することを意識して文を書いたり発表したりする活動を行う。これらの活動を通じて、多角的に物事を見る力や、自分の言いたいことをまとめる力、発表する力を身につけることを目指す。
 - (2) 生徒観
男子18名、女子6名の普通科クラスである。授業態度は比較的真面目だが、自発的に学習に取り組むことは難しい生徒が多い。中学生程度の語句の学習を繰り返しても定着しない生徒も多く、普段使用する言葉も貧弱である。授業でも、自分の考えをまとめて発表することには苦手意識をもつ生徒が多い。
 - (3) 指導観
指導に当たっては、生徒が自分自身と対話する時間を大切にすることで、自らを振り返るきっかけとしたい。「自分はどんな人間なのか」を自分なりに考え、工夫しながらわかりやすく相手に伝えることで自分の長所を自覚させ、さらには自信をもたせることにつなげたい。
学習活動については、個人活動やグループワーク、全体での活動を適宜行い、国語に苦手意識をもつ生徒も主体的に活動できるよう工夫する。また、他者の発表に耳を傾ける姿勢を大切にさせ、相手を思いやる気持ちを意識させたい。
- 4 単元の具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 (1) ア	・「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。 A (1) ウ	・言葉を通して自分の思いや考えを相手に伝えようと、ねばり強く努力している。

- 5 指導計画（全6時間）

経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。	2時間
自分の長所が効果的に伝わるような自己PRを考え、発表する。	3時間（本時3/3）
自分の長所を踏まえ、将来について考える。	1時間

6 本時の計画（第5時）

(1) ねらい

相手に効果的に伝わるように工夫しながら、自己PRの発表をする。

(2) 展 開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点・教師の支援	評価の観点
導 入 3分	1 本時の学習内容を確認する。		
相手に効果的に伝わるように工夫しながら、自己PRを発表しよう。			
展 開 4 2分	2 各班ごとに自己PRを発表して、相互評価をする。 3 各班の代表者は、全体に向けて発表する。 4 「自己PR」を発表した感想、また、聞いた感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に効果的に伝わる工夫をするように意識させる。 ・聞き手は、評価表に記入するよう指示する。 ・評価表の記入のしかたを説明し、なるべく「よかったところ」に着目するように指示する。 ・評価表を確認しながら、各班で一番よかった発表者を選ばせる。 ・発表の「よかったところ」を全体で確認させる。 ・「さらによくするためのアドバイス」も確認させる。 ・聞き手に効果的に伝えるために大切なことについて、気づいたことがないか、問いかける。 	【思考・判断・表現】 自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。
まとめ 5分	5 本時の振り返りをする。 6 次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価や感じたことをChromeBookに入力するよう指示する ・次時の授業内容を予告する。 	

準備物 教科書・ワークシート・国語辞典・ChromeBook

理科（科学と人間生活）学習指導案

日 時：令和5年10月25日（水）6校時
場 所：1年A組教室
対 象：普通科1年A組（20名）
指導者：佐藤 絵里子
教科書：「科学と人間生活」（実教出版）

1 単元名 3章 生命の科学 2節 微生物とその利用

2 単元の目標

- (1) 様々な微生物の存在や働き、生態系での役割について得た知識を人間生活と関連づけて理解することができる。 【知識及び技能】
- (2) 微生物の存在や働きについての実験や微生物の研究など歴史的な事項の学びを通して考察し、表現することができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 微生物と人間生活の関わりについて関心を持ち、意欲的に学習しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、微生物とは何か、微生物は私たちの生活にどのような関わりをもっているのかについて学習する。その中で、微生物は発酵食品や医薬品などの人間生活を豊かにしている面と食品の腐敗や病原体として悪影響を与える面があることに注目させる。さらに生態系における微生物のはたらきや環境浄化への利用についても学習するため、地球環境にも影響を与えている存在であることに気付かせたい。

(2) 生徒観

普通科の男子12名、女子8名のクラスで、非常に元気のある生徒の多いクラスである。理科に苦手意識を持っている生徒も多いものの、積極的に意見を出したり、グループで話し合ったりすることは得意である。苦手意識のある生徒にも科学と自分自身の関わりに気付くことで意欲的に学びに参加できるよう工夫したい。

(3) 指導観

中学校では、菌類や細菌などを微生物ということ、微生物が呼吸を行うこと、生態系において分解者としての役割を担っていることについて学習している。校内で培養したカビを観察することで、普段目に見えない微生物の存在を実感し、身近な存在であることを理解させたい。また、グループでの話し合いやクラスメイトの発表を聞くことで考えを深めさせ、科学的な思考や表現力の育成につなげたい。

4 単元計画（8時間）

- 1 いろいろな微生物・・・3時間（本時2/3）
- 2 いろいろな微生物の仲間・・・1時間
- 3 微生物の利用・・・2時間
- 4 生態系での微生物・・・2時間

5 単元の具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な微生物の存在や働き、生態系での役割について得た知識を、人間生活と関連づけて理解できる。	微生物の存在や働きについて、実験を通して考察し、観察・実験技能を身につけるとともに、適切に表現することができる。	微生物の存在や生態系における役割、人間生活との関わりについて関心を持ち、意欲的に学習しようとする。

6 本時の計画

(1) ねらい

空気中の微生物の観察を通して考察し、結果等を科学的に表現させる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点・教師の支援	評価の観点
導入 5分	1 前時の振り返りと 本時の流れを確認する。		
	<p>発問 どのようなところにどんな微生物が存在するのだろうか。</p>		
展開 42分	<p>2 カビを観察し、発表の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・置いた場所の理由 ・存在するカビの種類(色) ・気付いたこと等 <p>3 班ごとに培養したカビについて発表する。聞き手側はワークシートにメモ等をとる。</p> <p>4 各班の発表をもとにワークシートを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽後高校に存在するカビ ・カビが発生しやすい場所 ・感想と自己評価 <p>5 ワークシートへの記入内容を発表する。聞き手側は印象に残った発表内容をメモする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カビの種類は色で区別すること、時間があればクロムブックで名称を調べても良いことを伝える。 ・机間指導をする。 ・アレルギー等に配慮し、カビの扱いに配慮させる。 ・各班のシャーレを実物投影機で電子黒板に映す。 ・初めに個人で考え、その後グループで話し合ったり、確認したりするよう伝える。 ・机間指導をする。 ・発表する者が固定されないよう、発表者の決定を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物の存在についての実験を通して考察し、表現することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p>
まとめ 5分	6 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表を振り返りに活用する。 	

準備物 教科書・ワークシート・ChromeBook・電子黒板・実物投影機

令和5年度 指導主事訪問 研究授業・協議会

国語科研究協議会 15:30～16:10 (図書室)

指導者	高校教育課主任指導主事 櫻田 瑞子 先生
授業者	奥山 栄子
司会	高橋 潤
記録	松井 智彦
参加者	小川 卓也、小野寺裕美子、佐藤 睦美 高橋 恵、沓澤 金哉

1 授業者から感想・課題等

- ・授業について生徒は120%頑張ったと思う。
- ・クラスの現状として素直で真面目だが、語彙力が乏しい。
- ・授業では自分のことを振り返って自分の考えを話してもらいたいという思いから題材を決定した。
- ・振り返りはできたと思うが、発表（表現）はできていない。

2 授業参観者から感想・質問・意見等

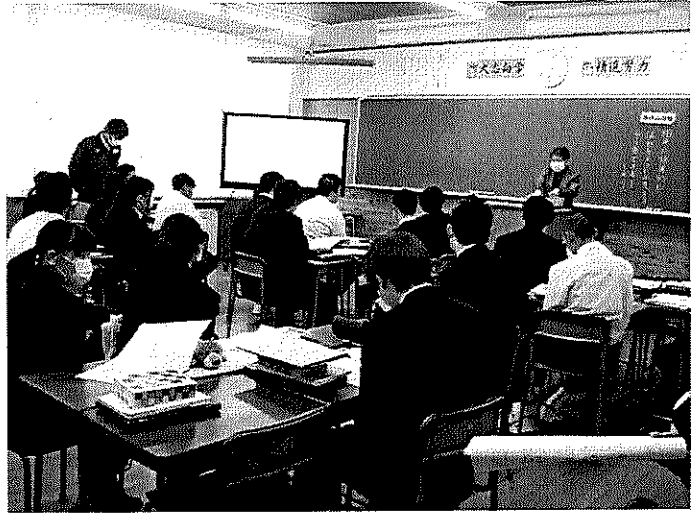
- ・時間配分、雰囲気作り、生徒への指示が素晴らしい。
- ・先生と生徒が共感して話している。生徒がうなずいて話を聞いていた。
- ・時間を指定しなくても時間通りに終われることがすごいと感じた。
- ・来年度へつながる内容であった。（就職試験など）

【質問】

- ・作文への添削や指導の時間は？
→指導は1回のみ。生徒の言葉を生かしたいという思い。わからないことはアドバイスを与えた。
- ・評価表の観点作りの際に大事にしていることは？
→声の大きさを重視している。人に聞こえる大きさ。

3 指導助言

- ・生徒が主役であるための仕掛けが素晴らしく非常に良い授業であった。
- ・生徒の元気がフルに出ていた授業であった。
- ・授業の流れが書画カメラで与えられており、さらに本時の目標をクラス全員で声に出すことで共有されていた。
- ・何を学ぶ單元か？評価の観点など焦点化されていた。特に今授業では「話すこと」について明確化されていた。
- ・生徒が恥ずかしがらずに堂々と発表できていた。作文に生徒の成長の過程を確認できるようだった。また、話すだけでなく聞く側の姿勢も大変よかった。
- ・生徒の実態に合っており、色々な仕掛けがされた授業であった。
- ・学習活動がとてもスムーズであった。グループ活動・自己・他者評価など
- ・学んだことが他の何かの場面で生きてくると感じた。自分なりの言葉でまとめる（伝わるように工夫できることは？）とさらに良かったのではないかと。



授業風景 1



授業風景 2



協議会風景

令和5年度 指導主事訪問 研究授業・協議会

理科研究協議会 15:30～16:10 (被服室)

指導者	高校教育課 指導主事 山城 崇 先生
授業者	佐藤 絵里子
司会	照井 雅孝
記録	三浦 杏太
参加者	佐藤 大優、富谷 朋子、佐藤 悠也 佐藤 郁子

1 授業者から感想・課題等

- ・寒い日が続いたのもあり、カビの色がはっきりとはでなかった。
- ・生徒は「本時の課題」に意欲的に取り組んでいた。
- ・自分で選んだ場所にどんなカビがというところから主体的な学習につながったのではないかと感じた。

2 授業参観者から感想・質問・意見等

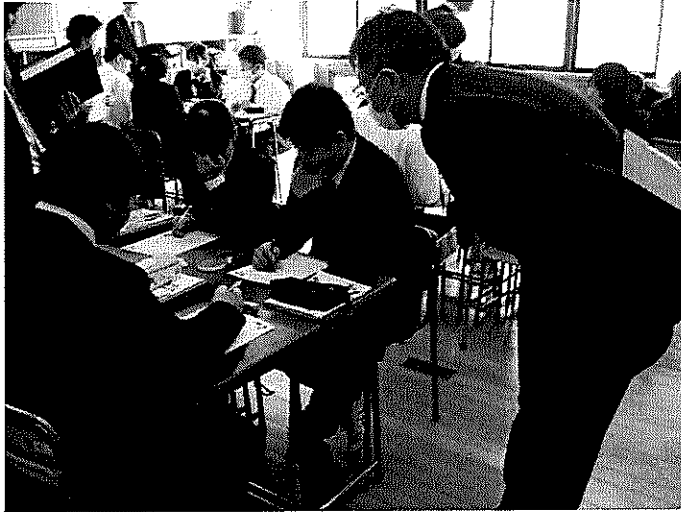
- ・生徒が生き生きとしており、考えさせる場面も多くあった。
- ・普段の指導が行き届いていると感じられる授業だった。
- ・カビの種類の検索を観察前に行っていれば、また別の見方や発見があるのではないかと感じた。しかし、最後に自分が見つけたカビの種類を調べることで、理解が深まっている様子もみられた。
- ・実物投影機と電子黒板を使い、各班の結果を生徒全員が共有できていた。
- ・授業の雰囲気が良く、意欲的に取り組んでいた。
- ・電子黒板やタブレットを活用していることに加えて、まとめの際にはタブレットを閉じて聞く姿勢になっていたところをみて、普段の指導が行き届いているなど感じた。
- ・「本時の課題」にある「微生物」＝「カビ」は、生徒全員が理解していたのか。また、微生物は目に見えないけど、カビは見えることの違いは理解しているのか気になった。
- ・観察している様子から生徒がカビに興味をもっていると感じた。
- ・シャーレを置いた場所について、生徒に事前知識があるから水場や湿気の多いところを選んで、置いているのだと思った。
- ・「本時の課題」に対する「まとめ」となっており、理解したことを表現できていると感じた。
- ・本時の振り返りの際に、班の会話で「換気って大事だよ」と話しており、理解したことと日常生活がつながりをもっていると感じた。

3 指導助言

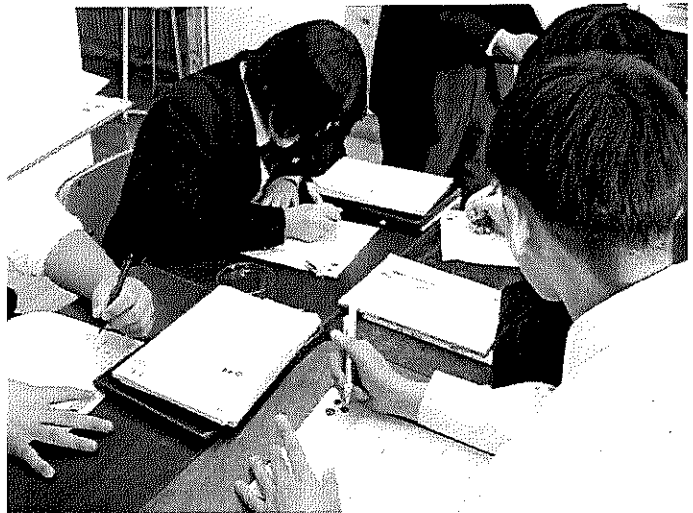
- ・ICT化が進んでいた。また、この場（協議会）もICTを活用してみてもいいのではないかと感じた。例えば、付箋などを用いたKJ法やジャムボードを活用して協議会を行うと共有もしやすく、協議内容がデータとして残る。そのデータを後日、落ち着いたときに振り返るとさらに理解が深まる。
- ・今回の授業のテーマを「目に見えない物を可視化する」と設定したのが良かった。「目に見えない物が可視化」されることで、理解をより一層深めることにつながり、生徒の主体性や意欲にもつながる。
- ・観察する前に、代表的な色のカビを見せることで自分たちが発見したカビが何色にあてはまるのか、また、そのカビがどこに存在し、どんな効果があるのかをより知ることができたのではないかと感じた。
- ・「指導と評価の一体化」をよく読んで指導案作りなどに生かしてほしい。

・互見授業のポイント

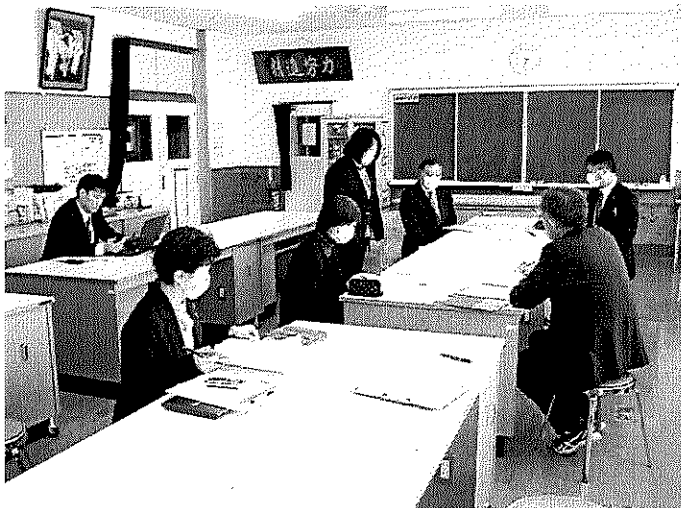
- ①達成すべきこと学ぶべきことを生徒に示されているか
- ②全ての生徒が今何をするのかを理解しているか
- ③教科の面白さに気付かせる発問があるのか
- ④教師間で生徒のどのような資質能力を育成したいか共有できているか



授業風景 1



授業風景 2



協議会風景

令和5年度 指導主事訪問 研究授業・協議会

全体会 16:15～16:45 (会議室)

司会 教頭 米川 寛

1 校長挨拶 (指導者紹介)

高校教育課	主任指導主事	櫻田 瑞子 先生 (国語)
高校教育課	指導主事	山城 崇 先生 (理科)
秋田南高等学校	教育専門監	村上 まゆみ 先生 (学校保健)

2 教科別協議会・学校保健面談報告

【国語】

- ・参観者、指導助言含めて大変素晴らしい授業だったという声が多かった。特に時間配分、雰囲気作り、生徒への指示や授業の仕掛けが非常に素晴らしいという意見が多く挙げられた。
- ・先生と生徒が一体化というか共感しながら良い雰囲気ができていた。
- ・授業の流れの説明に書画カメラを使い、それに付箋を貼って評価進捗の確認などがされていて、こういう使い方もあったのだ、という意見もあった。
- ・本時の目標をクラス全員で声に出して共有するところが新鮮で新たな気づきにもなった。

指導助言

- ・生徒が主役であり堂々と発表できている、とても良い授業であった。
- ①学習指導案については、生徒が何を学ぶ單元か、評価の観点などが焦点化されおり、その中でも目標の明確化がされていて欲張らない授業であった。話すことにフォーカスされていた。
- ②学習活動が非常にスムーズであった。グループ活動、自己・他者評価が生徒指導的な役割を果たしている。
- ③次につながる(就職試験であるとか、今日学んだことが今後のどこかの場面で生きてくる)ような工夫があった。授業の最後に自分なりの言葉でまとめるとさらに良かった、という助言をいただいた。
- ④授業アンケートの結果などを踏まえて、生徒の意欲を感じさせるように務めてほしいとの助言もいただいた。

【理科】

- ・ほぼ全員の参観者から授業の雰囲気が良かった、生徒が生き生きと取り組んでいた、という声があった。
- ・カビの培養場所を生徒達自身で考え、選んで実験に及んだことにより、自発的に学ぶ意欲が高まった。
- ・書画カメラを使って生徒全員が実物の画像を共有できたのも、ICTの活用として良かった。

指導助言

- ・ICT化が進んでいて良かった。*協議などの場でもICT化が進めば良いのではないか。
- ・目に見えないものを可視化させることが「理解の深まりにつながる」良い題材を選んだ。
- ・「指導と評価の一体化」(国立研究センター・書籍)をよく読んでよりよい授業を作ってほしい。

【学校保健】

- ・本校の学校保健計画を中心に相談させていただいた。
- ・本校は保健関係の講話が充実している。それぞれの実施の内容や課題について、またポエムやQJアンケートなど、情報の扱い方や実施に関しての留意点なども相談した。
- ・スポーツ振興センターとマルフクの申請において、ベストな事務作業の情報共有を行った。昨年度から羽後町と湯沢市では、高校生世帯に全員マルフクが適用されており、高校生が病院を受診した際、受診料がかからなくなっている。学校での怪我でマルフクを申請してしまうと、保険の二重取りになってしまう。その件について保護者に一番伝わりやすい文章について協議することができた。

- ・生徒保健委員会の活動についても相談した。
- ・保健室内のレイアウトについてご助言いただいた。生徒数が減少している中で、不要な物を溜め込まない、使いやすい保健室を今後とも目指していきたい。

3 指導助言

【櫻田主任指導主事】

- ・標本準備、授業準備お疲れ様でした。今日は給食をいただいた。羽後高校の活性化を考える会で構想が上がり様々な検討を経て昨年度からスタートした給食、町への愛着をさらに深めてほしいという羽後町の思いが実現した給食を味わっておいしくいただいた。また、しいたけ部の生徒さんたちが丹精込めて作ったしいたけもおいしくいただいた。

①諸表簿について

- ・指導要録をはじめとする諸表簿を確認した。非常によく整理されていて丁寧に記載されていた。年間進度表・シラバスの方は、新学習指導要領を先生方がよく勉強されていると感心した。観点別評価も入っていてご苦労された点もあるかと思うが、評価に関しては検証・改善をしていくことが必要である。観点については、すべての教科科目で3観点で評価することになっている。この3観点は、定期考査でもこの力を測るとシラバスに書かれている。また、定期考査問題も拝見したが、思考力・判断力・表現力を問う問題も見られて、先生方がよく勉強していると感じた。新聞や社会の状況などを踏まえて資料を使って、自分の考えを書いたり説明したりする問題は、思考力を測るのに有効な問題であると感じた。定期考査も先生方で共有して、良い問題は自分の考査問題に生かしてもらえればと思った。
- ・事前に校務支援システムで出席簿、1～3年までの指導要録も確認している。こちらの方も、先生方が生徒一人一人の適性を見ながら丁寧な指導をしていると感じた。細かいところは教務の先生にお伝えしたので後ほど確認してほしい。

②教育活動について

- ・学校の教育方針を十分に生かした教育活動をしていると感じた。
- ・町の全面的な協力・支援のもと、学校の魅力化・活性化につながる取り組みが充実している。地域との連携に関しては本校の取り組みが県を牽引するものであると感じた。
- ・羽後広報に20歳を迎えた本校の卒業生の声が載っていた。そこには高校で体験したように町を盛り上げられるようなプロジェクトを実現したいとか、様々な人と関わりや経験を積んで町のイベントに関わりたいとか、羽後町を元気のある町にするために貢献したい、とのコメントがあった。本校の羽後学、それから授業を通して地域の人と関わった経験、それから大学生と関わった経験、外部講師などから刺激を受けた、そういう高校時代の学びが卒業してからもきちんと生きていると感じた。先生方が地域貢献に精進する生徒達や、地域の未来を支える人材を育成していることだと思う。このことについては誇りを持って今の取り組みを充実させていただきたい。

③授業改善について

- ・全体的な授業、本校の目指す生徒像の一つに「課題意識を持ち自らの力で解決を目指す向上心のある生徒」というのがある。また、カリキュラムポリシーの一つに総合的な探究の時間の羽後学を通して、地域と連携した探究活動を行い課題を解決する力を身に付けるとある。これが先ほどお話しした地域連携とつながってくるが、地域連携・地域貢献、これに関しては地域を取り巻く問題というのは複雑で、そして困難であり答えは一つではない。地域を支える人材の輩出を目指す本校にとって、学びの中心に羽後学があるということは、答えのない問いに挑戦して解決に向けての方策を見いだそうとする生徒を育成しようとしていることだと思う。この課題を解決する力について羽後学では十分取り組んでいると思うがそれぞれの授業ではいかがだろうか。授業において、この学びが社会につながっている、この単元で身に付けたことが探究活動、羽後学の取り組みにつながっていると生徒は実感できているだろうか。実感できるような授業を先生方が作っているだろうか。
- ・今日の授業参観、研究授業などを通じて、十分つながっている授業をしていると感じた。
- ・課題を解決するために必要なのは思考力、判断力、表現力だと思うが、そのためには知識がもちろん必要である。先生方が丁寧に、基礎的、基本的知識を身に付けさせようとしている、そして同時に、半歩進めて知識を活用する授業作りに挑戦しているのがよくわかった。たとえば、具体的に言うと、生徒が考える場面、発表する場面、意見を述べる場面、共同して作品を作る場面など、

生徒が主語となり、生徒が活躍する場面が多く見られ、こういう場面を先生方が意図的に作っているのだなと感じた。

- ・社会において課題を解決していく力、つまりは羽後学の充実、これに向けて授業一つ一つが非常に大事になってくるかと思う。今後も今以上に授業の中で、生徒の資質能力を育む工夫をお願いしたいと思う。
- ・最後になるが、令和6年度版の学校案内にある「小さな学校で大きな経験を」という言葉はとてもいいなあと思って見ていた。まさに本校を表す言葉というように感じた。大きな可能性を持っている生徒たちを育てる工夫を先生方が日々努力していると思う。引き続き子ども達の未来のために教育活動を進めていただきたい。

【山城指導主事】

①生徒指導について

- ・高校教育課では数年来、生徒指導上の重点事項として「こころ・姿・振る舞い・さわやか高校生」運動の推進による生徒指導の充実を掲げている。本校の生徒たちは気持ちよく挨拶し、制服の着こなしもしっかりとしている。授業の中ではペアワーク・グループワークでとても活発に討論している様子も見られて熱心であるところ等、しっかりしているなという印象であった。これも先生方の日々の指導の賜と思う。
- ・授業における生徒指導：問題行動への対処という消極的といわれる生徒指導（一部の生徒を対象に限られた場面で行わない）、これに対して全体に対して日々行われる指導を積極的な生徒指導といわれるものがある。授業内の積極的な生徒指導であればこそ、すべての生徒を対象に自己指導能力の育成を目指し、あらゆる教育活動に機能していく。そのためには生徒指導の3つの機能を作用させることが大切であると言われている。

1. 自己決定の場を与える授業。自ら課題を見つけてそれを追求し、自ら考え判断し表現する授業。
2. 自己存在感を与える授業。生徒一人一人が学ぶ楽しさや成就感を味わう授業。
3. 共感的人間関係を育む授業。お互いに認め合い学び合うことができる授業。

- ・日常の授業に生徒指導の3つの機能を生かすことは、生徒の自己肯定感を高め、コミュニケーション能力やよりよい人間関係の構築などにつながる。
- ・授業は学校生活の基本であり、生徒ともっとも正面から向き合える瞬間であり、わかる授業によって信頼関係を築くこともできる時間であると言われている。授業は生徒指導の面でも絶好の機会であるにとらえてほしい。

②授業改善について

- ・平成28年の12月の中央教育審議会答申では、主体的な学びについて「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しを持って粘り強く取り組み、自己の教育活動にふりかえって次につなげる」としている。見通しと振り返りというのは主体的な学びにつながることになる。
- ・今回の授業参観では特に2つの点に注目した。①授業に見通しを持たせているか、どのような資質、能力を育てたいのかという目標を生徒と共有する。②ゴール（自己の変容）を生徒に自覚させる、ここまでの流れを明示する。
- ・本校の学校訪問では2回とも本時の目標が示されていた。「～できる」という形の到達目標は生徒の側に立った行動目標になる。この1時間で何ができるようになればいいのか、目標を持たせるものになる。これを教師の側から見ると、指導目標や目当てといわれるものになる。たとえば今回の授業も「到達目標」と「指導目標」両面から見ていただくと、それぞれの授業改善になるのではないかと。その際、すぐれた学習課題というのは次の4点で検証することができる。

1. その授業における学習の本質を突いているか
2. 具体的な問いかけでゴールまで見通せるか
3. 学習意欲を刺激する魅力的なものか
4. 生徒の実態に応じたレベルと表現か

- ・この目標については、授業の最後に生徒が顔を上げて黒板を見た際に、今日の授業ではこれができるようになったのか、と振り返れるような状態が望ましい。最初に提示した目標が最後に生徒の目に残るところにあるものだろうか。最後に黒板に残るような形のものであれば効果的ではな

いだろうか。

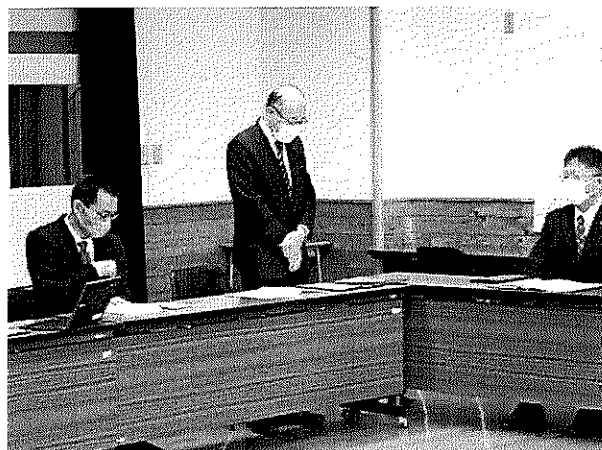
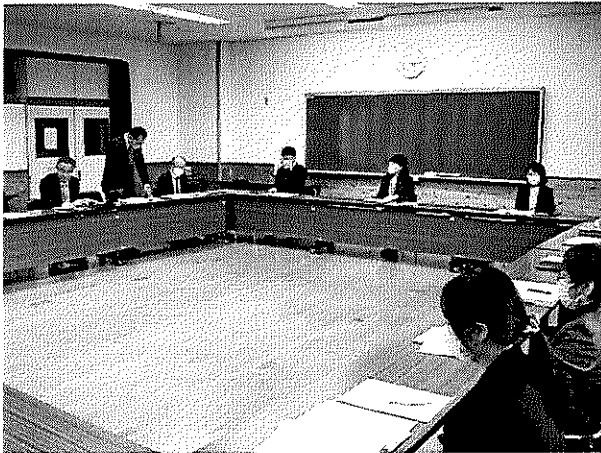
- ・相互評価、意見を共有する、そこで授業のユニバーサルデザイン化について考えてみる。

1. ビジュアル…視覚化しているか（張り紙やモデル、実験というのは最たる例であり、またICT化しやすいのもこのビジュアル面である）
2. フォーカス…焦点化しているか（集中させるためには黒板周りには張り紙をしない、張り紙の四隅を止めて動かないようにするなど、机の上を片付けさせる、タイマーで時間を区切るなど）
3. クリア…指示が明確か（言葉がけ、授業の構想化）
4. シェア…考えたことの共有、発表（ICT化が力を発揮する部分）

- ・ビジュアル、フォーカス、クリア、があってシェア（相手に自分の考えを伝えること）ができるのではないだろうか。こういった点で授業を拝見した。
- ・先生方の授業は丁寧に準備されていた。生徒が自然に発表できるような工夫が見られた。ICTの活用もとてもできていたと思う。それによってユニバーサルデザイン化ができている授業もあり研修の成果もできていた。学校の中に浸透していると感じた。
- ・地域や大学生との連携が良くなされている。特色ある教育で地域に貢献できる人材の輩出に努めている。県で最もがんばっている学校の一つと言える。今後も組織的な授業改善をすすめていただければと思う。

4 校長謝辞

頂戴したご指導・ご助言はこれからの教育活動にいかしていきたい。今後ともご指導ご鞭撻をお願いしたい。



3 研修講座

- **A 講座**

教職5年目研修講座
中堅教諭等資質向上研修講座

- **B 講座**

- **C 講座**

教職5年目研修講座を終えて

商業科 佐藤 悠也

1. はじめに

教職5年目研修講座を受講するにあたり、授業の指導力向上をテーマに臨むことにした。また、教科指導のみならず、学級経営や生徒指導、発達障害を抱えている生徒への支援について理解を深めることもねらいのひとつである。初任者研修から学んだこと、経験・実践したことを振り返るとともに、さらなる向上のために研修を受けることができた。研修内容について紹介し、研修で感じたこと・学んだことについて触れていくことにする。

2. 高等学校教職5年目研修講座について

高等学校教職5年目研修講座はⅠ・Ⅱ期にわたり実施された。

教職5年目研修講座（高等学校）Ⅰ 令和5年6月16日（金）実施

<講義・演習> 教育相談と人間関係づくり

人は外界の出来事に対して、主観的意味付けをしているため、「～すべき」や「これが正しい」、「常識的に考えて」など常識を疑って崩して考える必要が大切であることが分かった。円環的思考では、一つの出来事に二つ以上の「疑問」と「複数の仮説」を立てる習慣が大切であること。話しを聞くことに関しては、内面を理解することと、行動の改善を図ることが大切であることを学んだ。教育相談で使える技法として、解決志向ブリーフセラピーがあり、その人の持っている力やその人がこうなりたいと思う希望や願いに焦点を当てることが大切であると学んだ。

<講義・演習> 学校組織の一員として～マネジメントの視点～

マネジメントの目的を達成するために、マネジメントの対象、方法、資源を有効に活用することが大切である。学校教育目標を保護者や地域住民へ向けてのどのように発信するのかについて手立てを考えることが大切であること。自校のことについてまとめ分けやすく伝えることの難しさやマネジメントの大切さを改めて感じた。

<講義・協議・演習> 生徒の実態を踏まえた授業改善①

生徒の実態を踏まえた授業改善を図るために、ねらいに対する適切な評価を行うことが大切であること。一つ目は、自己評価、二つ目は先生からの評価、これをしっかりと行うこと、そして指導と評価の一体化を図ることが何よりも大切であると学んだ。

教職5年目研修講座（高等学校）Ⅱ 令和5年9月13日（水）実施

<講義・演習> 発達障害のある生徒の理解と支援

特別な配慮を必要とする生徒への指導としては、個別の支援計画を作成し活用すること、共生社会の実現のためには、合理的配慮が提供されることが必要になってくることを学んだ。障害者への不当な差別など、その人にあった配慮が大切であること。本人や保護者と可能な限り合意形成を図った上で決定し、提供されることが望ましいこと。同じスタートラインに立つための支援が大切であることを学んだ。「何に困っているのか」を含めた、生徒の全体像を明らかにすることが大切であることを改めて学んだ。

<講義・協議・演習> 生徒の実態を踏まえた授業改善②

ルーブリックでの評価は一人一人に対しての評価シートを作成しなければならないため、授業が付随したものになってきてしまう。専門的な視点と他教科的視点で異なるため、他教科の先生方からアドバイスを頂くことができ大変参考になった。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を主体的・協働的で深い学びにつなげる。ICT活用を個別的なものか協働的な学びなのかをしっかりと区別して行うことが大切であること。一斉に教える授業から、生徒の学びを支える授業への転換が大切であることを学んだ。

中堅教諭等資質向上研修

理科教諭 佐藤 絵里子

1. はじめに

今年度の校内外での研修を通して、新たな気づきや学びなどがあった。特に初任者研修から刺激をもらってきた同期との協議では中堅教諭という自覚をさらにもたなければならぬと気持ちが引き締まった。この研修を通して経験したことや学んだことをまとめる。

2. 校外研修

(1) 総合教育センター研修

・ I 期

- ① <開講式> 中堅教諭等への期待 (センター所長 阿部 聡)
- ② <講義> 質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略
(秋田大学大学院 教授 成田 雅樹)
- ③ <講義・演習> 学校の危機管理 (センター 教育専門監 三浦 真澄)
- ④ <講義・演習> 学校組織の一員として①-リーダーシップ
(センター 指導主事 森川 剛)

この研修では中堅教諭としての自覚をもち、もっと学校運営に積極的に関わらなければと思われた。リーダーシップをとることに苦手意識があるが、リーダーシップにもいくつか種類があることを知り、私に合ったリーダーシップをとっていきたいと感じた。また、授業研究・授業改善については、これまでも意識的に取り組もうとしているが、目標設定や研究授業の協議についてなどヒントをいただいた。

・ II 期

- ① 高い専門性に基づく教科指導の充実と推進 (センター 指導主事 田口 峰子)
3名の理科(生物)の教諭でお互いの授業を撮影したDVDを見てから協議した。この研修での目標は「専門的な指導・助言をする」ことであった。自信をもって専門的な助言をすることが私にはとても難しかった。まだまだ生物の専門家としての力量が足りていないことも自覚できた。もっと広く深い知識を身につけたいと感じた。また、他の先生の授業を見て、私の授業にも取り入れてみたい手法もあり、生徒の指名の仕方などその後実際に取り入れたこともある。

・ III 期

- ① <講義・演習> いじめの理解と対応 (センター 指導主事 小野寺 祐)
- ② <講義・協議> 気になる生徒の事例を通じた具体的対応の理解
(センター 指導主事 高橋 真理奈 他)

生徒指導に関わる研修であった。他校の先生方との協議の中で私がこれまで経験したことのない事例への対応についても聞くことができ、大変参考になった。特に午後の協議ではスーパーバイザーの先生も加わり、さまざまな生徒への対応の仕方について意見を出し合った。いじめや気になる生徒への対応は組織的に対応することや生徒の特性を十分に把握して対応していくことが大切なことを確認できた。

・ IV 期

- ① <講義・協議> 教育活動全体を通じたキャリア教育
(センター 指導主事 木村 ふさ子)
- ② <講義・演習> 学校全体で取り組む情報教育
(センター 指導主事 小西 一幸)
- ③ <講義・協議・演習> 人間としての在り方生き方を考える道徳教育
(センター 指導主事 鈴木 紀子)

キャリア教育・情報教育・道徳教育の3つとも教科指導や部活動など日頃の教育活動のさまざまな場面で取り組むことができるため、意識的に取り組むことが大切

であることが分かった。一緒に協議した先生が勤務している学校では毎回の授業の初めに道徳教育に関する22のキーワードの中からその時間に取り組むキーワードを明示し、教師と生徒で共有していると聞いた。このようにして意識的に取り組む方法もあることを学んだ。

・ V 期

①<講義・演習>教育公務員の服務 (高校教育課 管理主事 柴田 創一郎)

②<演習・発表>学校組織の一員として②-キャリアデザイナー
(センター 指導主事 森川 剛)

③<講話>これからの学校教育 (センター 副所長 亀沢 勉)

④【閉講式】中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって
(センター 主幹 日沼 良樹)

①では教育公務員の服務について確認し、私自身が遵守するのはもちろん、これからは服務を守る職場づくりにも努めなければいけないことを自覚した。不祥事防止は一人ひとりの意識や心掛けが大切であるが、それを忘れないよう組織としての取り組みをしていかなければならないと感じた。

②では初任からこれまでを振り返り、自分の教育への想いを確認することができた。研修者3名で発表し合い、この11年間みんな試行錯誤しながらより良い教育活動をしようと頑張ってきたことがわかり、気持ちを共有できたことや前向きに取り組んでいることを知りうれしさを感じた。これからも日々アップデートしながら生徒のために頑張ることができる教師でありたいとこれからの目標ができた。

(2) 高校教育課研修

① 授業研修

9月5日に秋田県立新屋高等学校で理科の授業研修を行った。研修者は物理1名、生物3名の計4名で3クラスの授業を担当した。私は一人で1年生の生物基礎を担当した。たくさんのお話を詰め込みすぎて一番力を入れたかった各班の発表とその内容の比較にあまり時間をとることができなかった。私以外の生物2名で行った1年生の生物基礎ではT1、T2を交互に入れ替えながら行う授業であった。1時間の中で授業者2名の得意なことがちりばめられていた。2年生の物理基礎では演示実験で生徒の意欲を高め、その効果もあって主体的に問題演習に取り組んでいる生徒の姿が印象に残った。両授業とも研修者それぞれがこれまで培ってきた力を感じる授業であった。午後からの協議では研修者がお互いに助言等を行い、私もたくさんのおアドバイスをいただいた。採用からこれまで切磋琢磨してきた仲間の存在は特別なものであると感じた。

② 選択研修

8月3日(木)から5日(土)の3日間、ビブレ湯沢店で研修を行った。3日間とも開店前の準備から夕方方の忙しくなる前まで、休憩を入れて8時間の勤務を体験させていただいた。

忙しい中、本研修を引き受けてくださったこともあり、大まかな指示をいただいた後、一人で黙々とその作業をすることが多かった。困ったときには勝手な判断はせず、指示をいただいたが、普段客として利用している立場から、より良い作業を判断し、実行することができた。

作業の中で、「この商品をできるだけ出して、残りは寄せておいてください。」という指示をいただき、可能な限りスペースに出しましたが、出し過ぎたような気がしたため指示をいただいた方に相談すると、「出し過ぎです。」と言われ、やり直した。この経験から生徒への指示の出し方も見直そうと思った。“できるだけ”など人によって感覚の異なる言葉は指示が通らないことが多いため、誰に対しても同じ状態になる言葉選びが必要だと感じた。人によって基準が異なりそうな場合は、具体的な数値を指示したり、目安になるものを示したりなど指示された側が正しいやり方になるように考えられた言葉を選びたい。しかし、どのようなときも細かい指示をしてしまうと生徒の思考を狭めてしまったり、指示をもらわないと行動できなくなってしまったりする可能性がある。状況に応じて指示のしかたが適切になるよう考えていきたいと

考えた。

本研修での経験は、今後の進路指導に直接役立つのはもちろん、教員としての指導方法も見直す良い機会となった。また、指導していただいた社員の方に「学校のことしか知らない先生より、一般企業のこともしっかり分かっている先生の方が安心して子どもを預けられる。」と言っていた。広い視野をもち、適切な指導を行うことのできる教師を目指して、これからも研鑽を積みたいと考えさせられた研修となった。

3. 校内研修

校内の多くの先生方からご指導いただいた。本校勤務4年目であるが、初めて気づくこともあった。特に印象に残っているのは「法規関係の事例研究」である。校長先生の経験も交えて生徒指導に関わる法規についてなどを教えていただいた。なかでもいじめに関して、相談を受けた段階で踏み込んで調べることが大切であると伺い、今後そのような相談をされた際に実行したい。

この1年間、多くの先生方にお忙しい中時間を割いていただき学ばせていただいたことに感謝している。

4. 特定課題研修

「地域連携と理科教育」をテーマに設定し、本校で毎年夏休みと冬休みに開催しているワクワク理科実験教室の取り組みについてまとめた。

この実験教室のねらいは、羽後町の小中学生が楽しみながら理科を身近なものとして理解し、科学に対する興味・関心を深めるとともに、地域の児童生徒の交流と羽後高等学校との連携を推進することである。

これまでねらいは念頭にあるものの実施することで精一杯であったが、今回を機に地域連携や小中学生対象の理科教育について意識的に取り組みたいと考えた。

①地域との連携の取り方

②小中学生に科学に対する興味関心を深めさせる工夫

上記の2つについて研究する。

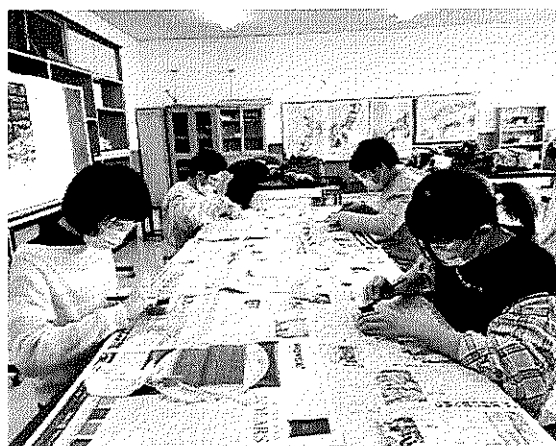
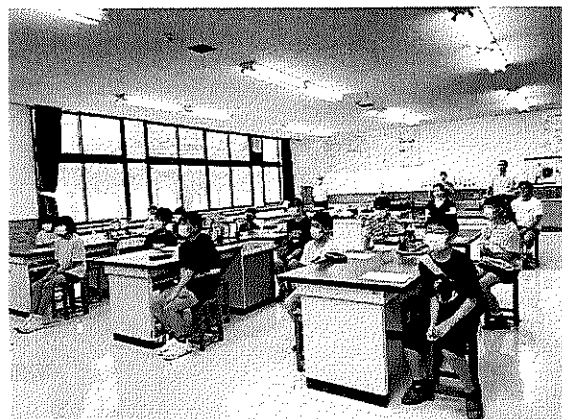
8月7日(月)13:30より「夏休みワクワク理科実験教室」実施。13名の小学生が参加した。「空気の科学」をテーマに雲や大気圧についての学習、空気砲づくりなどを行った。ペットボトルに雲を作ったり、アルミ缶を大気圧で潰したりなど科学的現象を自身の目で確認できたことで関心を深めることができたように感じる。また、雲に関わる話の中で羽後町にあるみはらし荘の雲海の話をし、地域に関した話をすることもできた。最後にペットボトルで空気砲、紙コップで的を作った。完成後にどのようなすれば遠くの的まで吹き飛ばすことができるかを自身で考えながら遊んでいる子どもの姿は、科学的な思考を育むことができたという手応えになった。

9月22日(金)の高教研理科研究大会の分科会(地学班)で理科実験教室について発表した。発表の中で実施内容や担当の負担感などについてアドバイスをいただいた。例えば湯沢市のジオパークについて扱う(湯沢市のジオパーク担当者の力を借りる)や、羽後町の小中学校の理科の先生方にも協力していただくなどである。現在本校の理科教員は私一人であり、実験教室では化学が専門の本校校長や他教科の先生数名が手伝ってくれている。この実験教室を今後も継続させるためにも近隣の小中学校の先生方の協力は有効ではないかと考えている。また、ふるさと教育の視点を取り入れた内容は子どもたちにとって理科を身近なものにするためにも有効であると考えており、ジオパークだけに限らず地元の団体等に協力していただくことも検討していきたい。

1月11日(木)9:30より「冬休みワクワク理科実験教室」を実施。12名の小学生が参加した。ちょうど羽後町の歴史民俗資料館で化石展が実施されており、テーマを「化石」とした。化石とはどのようなものなのかや羽後町で発見された化石、羽後町は大昔海だったことなどについて説明し、最後にジュラ株式会社から取り寄せた

化石発掘キットを用いて化石の発掘体験を行った。羽後町で発見された化石の多くが海の生物のものであることに気づかせ、日本列島が形成される過程について説明した。化石が発見された事実だけでなく、そこから大昔の羽後町の姿を考えさせることで科学的に思考させることができたと感じている。また、化石を取り出すことができた時の子どもたちの喜んだ顔は達成感を感じさせた。

羽後町教育委員会と協力して今年度も理科実験教室を2回実施することができ、子どもたちの科学に対する興味関心を深めることができたが、小中学校とも連携を強めることが今後の課題である。また、この理科実験教室を通して地域連携を進め、小中学生の科学への興味関心を深めただけでなく、私自身の理科教師としての知識等を広げ、深めることができた。



5. おわりに

1年間の中堅教諭等資質向上研修を通して、これまでの自分を振り返り、今後教員として目指すべき姿について考えることができた。また、採用からこれまでの研修を共にしてきた同期の存在は間違いなく私の原動力になっていると感じた。今回で同期全員が集まる研修は最後となるが、今後も切磋琢磨し合える良い仲間でありたいと思う。

今回の研修全体を通して、中堅教諭として学校運営に積極的にに関わり、後輩の指導をしていく立場にあることを理解した。これまでどちらかというと教科指導に最も力を入れてきたが、それだけでは任務を全うしていないことが分かった。しかし、学校運営や後輩への指導は自分に自信がないと難しいものである。もっと自分に自信が持てるよう、さらに研鑽を積んで学校運営に携わり、後輩へ指導できるようになりたい。

最後になりましたが、本研修でご指導いただいた方、研修の機会をくださった方、会うたびに学びと刺激をくれる同期に感謝申し上げます。

中堅教諭等資質向上研修

家庭科教諭 富 谷 朋 子

1. はじめに

今年度は家庭部会の研究中心校でもあり、秋田県総合教育センター主任指導主事部谷靖子先生から一年を通して教科指導を受ける機会をいただき、充実した研修となった。分掌業務においては、キャリアステージによって求められる役割を実践できるように、年次研修が終了した後も研鑽を積んでいきたい。

2. 校外研修

(1) 総合教育センター研修

同期採用の先生方との情報交換や協議演習を通じた実践的な研修が印象に残っている。特に、Ⅲ期の生徒指導の事例研修で先生方から他校の事例を聞くことができたことやSSWや指導主事の先生から具体的な指導助言をいただけたことが励みになった。時代の変化とともに生徒達を取り巻く環境が変わり、新たな課題に直面すると思うが、先生方や専門機関と連携して対応していきたい。

(2) 高校教育課研修

① 授業研修

秋田県立金足農業高校2年生を対象に、学習指導要領内容C持続可能な消費生活・環境の初発の単元を担当させていただいた。今回は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の実践に挑戦した。秋田県総合教育センター主任指導主事の部谷靖子先生や自校の先生方に助言をいただきながら授業研究をして臨んだところ、生徒の反応がほぼ予想通りだったのでスムーズに展開することができた。一方で、個別最適な学びを取り入れたことによって、教師が予想していなかった生徒目線の気づきもあり、クラス全体で思考を深めることができた。今後は、教師が伝えたいことばかりでなく、生徒が学びたいことを取り入れて、主体的に学習に取り組めるような授業をつくっていきたい。

② 選択研修

羽後町着付け教室ゆめくらぶで研修をさせていただいた。1日目は、西馬音内盆踊りの衣裳にも使われている藍染め、2日目は西馬音内盆踊りの端縫い衣裳と藍染め浴衣の着付け、3日目は和裁を教えていただいた。家庭科の授業のみならず、郷土芸能部の顧問としても生徒に還元できる知識と技術を学ばせていただいた。このご縁から、2学期は生徒も藍染めや西馬音内盆踊りの衣裳について教えていただき、藍染め体験で制作した作品を学校祭で展示することができた。今後も地域とのつながりを大切にして、羽後町の資源を活用した特色ある授業を取り入れていきたい。

1. 研究テーマ 科目「家庭基礎」における単元計画・評価計画の作成

2. 研究の概要

(1) 設定の理由

昨年度、単元計画と評価計画の作成が喫緊の課題であることを受け、家庭部会全県研究協議会で単元計画・評価計画作成の仕方について研修を行った。そこで、研修内容を活かし、家庭基礎 内容B「衣食住の生活の自立と設計」の単元計画・評価計画の作成および内容C「持続可能な消費生活・環境」の単元構想の作成に取り組んだ。

(2) 研究内容

◆単元計画作成のポイント

- ①教科・科目として「育成を目指す資質・能力」を学習指導要領で確認する。また、各校の教育方針や目指す生徒像から生徒に身に付けさせたい力を明確にする。
- ②各小単元の学習につながりを持たせるために「軸」を設定する。
- ③学習指導要領内容A～Dまでの各項目及び指導事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、学習が展開されるように配慮する。
- ④初発の単元に課題意識を持たせられるような学習活動を設定する。また、自己の課題を振り返って課題を設定し、終末の単元で自己の課題について単元の学習を活かして再考できるような学習活動を設定する。
- ⑤単元を貫く課題を設定する。
- ⑥配当時間も考慮する。
- ⑦単元の目標を達成できるような学習内容（小単元）を設定する。

◆単元計画・単元構想の作成

- ①内容B「衣食住の生活の自立と設計」の単元計画・評価計画
内容Bの中から(2)衣生活と健康を選択し、学習指導要領内容C(3)持続可能なライフスタイルと環境と相互に関連を図った単元計画を作成した。生活的自立を目指すだけでなく、地域社会の一員として社会や環境に配慮した選択と行動ができる生徒を育てたく、内容C(3)と関連を図ることとした。また、衣服は私たちの生活を支える様々な役割を担っていることから「服育」の4観点と関連付けた単元計画を作成した。
服育の4観点：自分を守る服（健康・安全）、自分を伝える服（社会性）、環境を学び行動に移す服（持続可能な社会の構築）、アイデンティティを育む服（国際性・多様性）
- ②内容C「持続可能な消費生活・環境」の単元構想
「経済的自立」を軸とした単元構想を作成した。経済的・社会的知識がないまま憧れの職業を目指す生徒もいることや、離職・再就職する際に必要な知識を在学中に教えてほしかったというアンケート結果から、卒業後の職業人・社会人としての生活実態を知り、課題意識を持たせられるような単元構想を作成した。

◆評価計画の作成のポイント

- ①各小単元に評価規準は2つまでとする。多すぎると実際に評価するのが難しい。
- ②「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、基本的には各単元の学習過程において次の三つの側面から設定し、評価することが考えられる。
 - 1) 粘り強さ
文末を「～について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている」とする。
 - 2) 自らの学習の調整

文末を「～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。」とする。

3) 実践しようとする態度

文末を「～について地域活動に参画するとともに、自分や家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている」とする。

単元での学習をポートフォリオのように積み重ねていく方法として、googleスライドに学習活動や振り返りを記録していく方法を実践した。

3. 成果と課題

単元計画を作成し、実生活の場면을イメージできる題材を通して学習することで、家庭科の「見方・考え方」を働かせて学習することができた。また、今、学んでいることが役立つ場面が分かるため、主体的・意欲的に取り組む姿勢が見られた。特に、初発の単元で「知らないと困るな、気になったことを自分で調べてみたい」と課題意識を持たせる学習活動を設定することで、授業で扱った知識や技術以外にも主体的に学習し、課題に対応する力を身に付けられると感じた。

課題は、学習指導要領の指導事項を満たしつつ、生徒の今後の生活に役立つ題材、課題意識を持たせられるような題材を選定することである。面白そうな題材であっても学習指導要領を確認し、「家庭基礎」の限られた授業時間で実践可能な題材を取り入れていきたい。

4 本校普通科 デジタル探究コース の取り組み

令和5年度 普通科デジタル探究コースの取り組み

デジタル探究委員会

1 はじめに

秋田県で実施されている「デジタル教育 未来へRUNプロジェクト事業」も今年度、2年目を迎える。この事業は、これからのデジタル社会で活躍するために必要となる資質・能力を身に付けた人材を育成することを目的としている。

本校では、DXを推進する担い手としてデジタル人材の重要性を踏まえて、デジタル技術に関わる事柄に対して興味・関心を高め、これからのデジタル社会を生き抜くための基礎・基本的な知識や技術の習得を図ることを目指して、次のような科目・教科を新たに設定して実施している。

①学校設定科目「デジタル情報」(3単位)

1年次の「情報Ⅰ」の授業に加えて、外部講師によるデジタル機器やプログラミング等に関する講話・講演や実技・実習を実施している。

②学校設定教科「デジタル探究」(4単位)

「総合的探究の時間(羽後学)」において、大学生とのオンライン交流や短期留学を通して、ICT機器やデジタルの知識・技術を積極的に活用して、問題・課題の発見や解決策の考察、プレゼン能力の向上などを図っている。

2 今年度(R5)の取り組み

(1) 日 時：6月9日(金) 6校時

テーマ：羽後学①「羽後学ってなーに？(ZOOMの活用)」

講 師：慶應義塾大学SFC 長谷部葉子研究会 学生3名(オンライン数名)

内 容：タブレットや電子黒板を用いて、ZOOMでの接続のしかたと
オンラインで今年度の「羽後学」の活動内容についての講話。

(2) 日 時：6月13日(火) 5・6校時

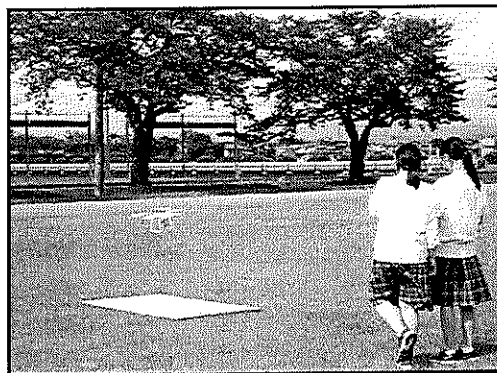
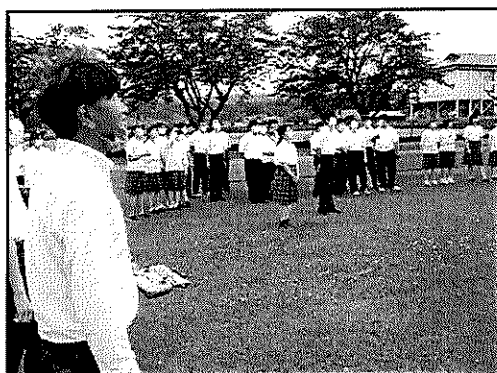
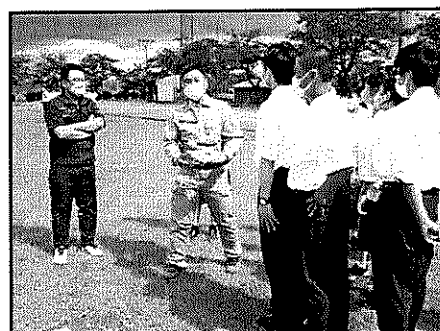
テーマ：「建設業の仕事とドローンの活用」

講 師：(株)小野建設 小野 人平さん、

実技指導：小野建設、柴田組、佐藤建設より数名

内 容：講話…建設業界におけるデジタル化の
進展についての講話。

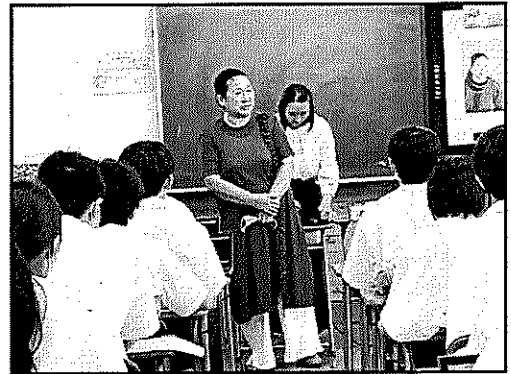
実技…校庭にてドローンの操作体験
(すべての生徒が操縦体験をする)



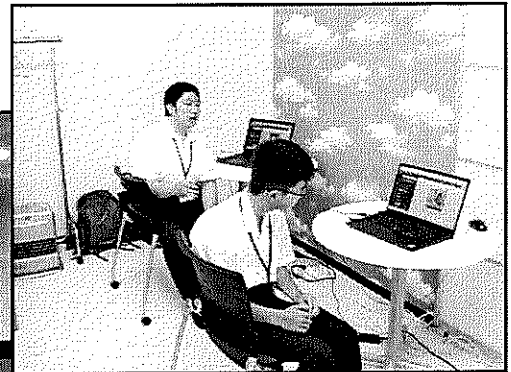
(3) 日 時：6月30日(金) 5・6校時
テーマ：羽後学②「自分の人生や価値観」
講 師：慶應義塾大学SFC

准教授 長谷部葉子先生、学生2名
(オンライン参加数名)

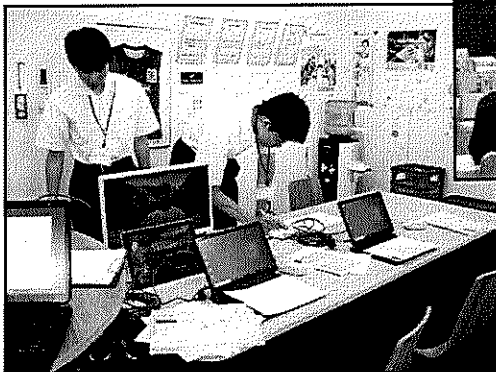
内 容：ゲストの皆さんのさまざまな生き方や
価値観に触れる。(対話形式のプレゼン)
また、自分のこれまでの人生を振り返り
自身の価値観について考える。
(Zoomの活用グループ切り替え)



(4) 日 時：夏休み中
テーマ：2年生のデジタルインターンシップ
実習先：7事業所
13名が参加



T-solutions(株)



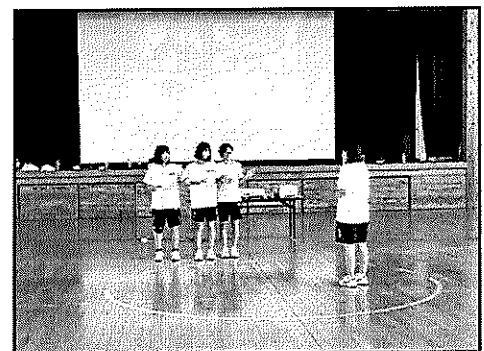
ゆーとぴあネット

(株)ロイヤルパソコンシステム

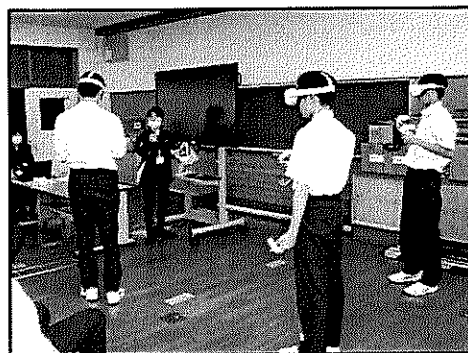
(5) 日 時：8月25日(金) 6校時 テーマ：羽後学③「ライフチャート発表会」
講 師：慶應義塾大学SFC 学生2名 (オンライン参加数名)
内 容：Chrombookで作成したスライドを用いて、自身のライフチャートを発表し、
フィードバック等を行う。

(6) 日 時：9月8日(金) 5・6校時 テーマ：羽後学④「自分の興味・関心を探究」
講 師：慶應義塾大学SFC 学生2名 (オンライン参加数名)
内 容：大学生と1対1で、オンラインで対話しながら、将来の進路につながる事柄につ
いて模索する。

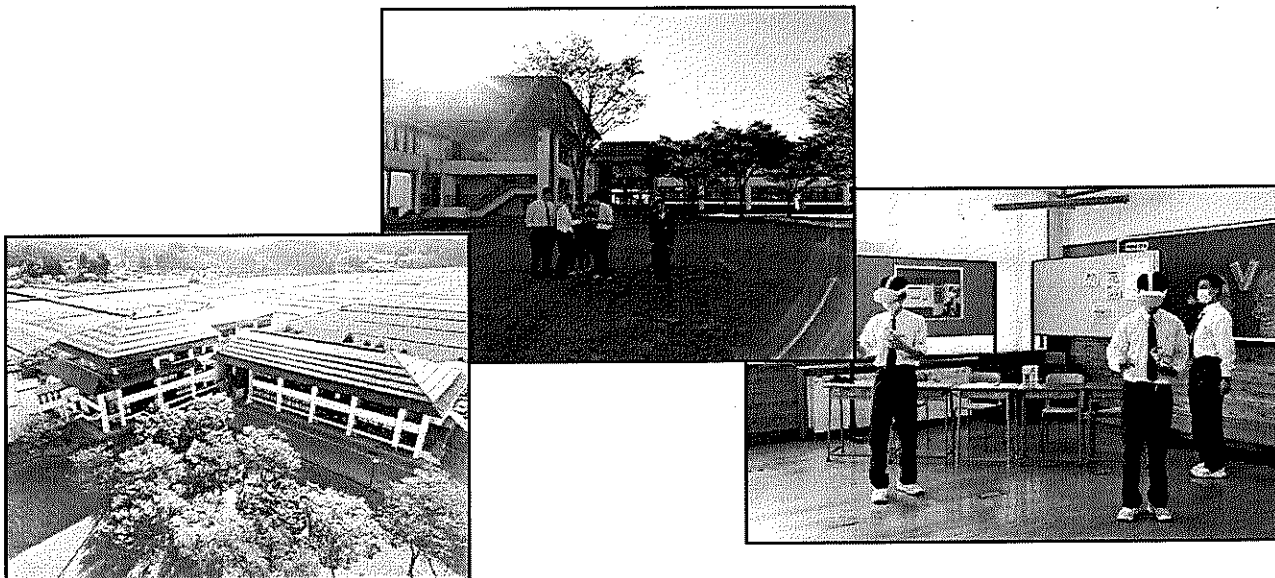
(7) 日 時：9月15日(金) 5・6校時
テーマ：羽後学⑤「表現力を高めよう」
講 師：慶應義塾大学SFC
学生2名 (オンライン参加数名)
内 容：自分自身をいろいろな方法で表現し合う。



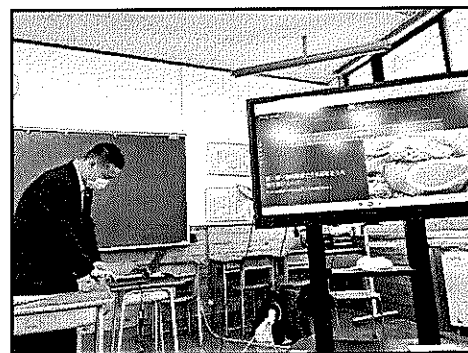
- (8) 日 時：10月2日(月) 6校時
 テーマ：「VRゴーグルの活用について」
 講師：デジナレ情報学研究所
 菅野侑華さん 他1名
 内 容：VRゴーグルの設定のしかたを習得し、
 実際に仮想空間を体験する。



- (9) 日 時：10月14日(土) 文化祭一般公開
 テーマ：デジタル探究事業ブース
 内 容：ドローンの操縦体験、VRゴーグルによる仮想空間体験



- (10) 日 時：10月17日(金) 5・6校時
 テーマ：「Webサイトの作成について」
 講師：デジナレ情報学研究所
 飛塚 嗣公さん 他1名
 内 容：Webサイトを作る上での注意点等。
 Web作成のためのサイトを用いて
 トップページデザイン等を考える。



- (11) 日 時：10月27日(金) 5・6校時
 テーマ：羽後学⑥
 「現在の"なんとなく"を言語化」
 講師：慶應義塾大学SFC 学生1名 (オンライン参加数名)
 内 容：11月に慶應義塾大学SFCで行われる研修に向けて、「なんとなく」の
 部分を言語化・顕在化させ、自分がどう世の中を捉えて生きているか、
 未来にやりたい具体的事象を見つける。

- (12) 日 時：11月7日(火) 5・6校時
 テーマ：「メタバース基礎」
 講師：デジナレ情報学研究所
 高橋 一俊さん 他1名
 内 容：メタバースの誕生から現在に至る世界
 各国や日本の状況について学習する。
 アバターを用いてメタバースの世界を
 体験する。



(13) 日 時：11月 8日(水)～10日(金)

テーマ：SFC研修合宿

講師：慶應義塾大学SFC 准教授 長谷部葉子先生 学生多数

内容：8日(水)…バス移動、アイスブレイク活動

9日(木)…SFCツアー、長谷部研究会の授業参加、大学生との語り合い

10日(金)…最終発表会、バス移動

具体的な活動内容は、グループごとに「魅力的な高校」とはどんな高校か定義し、その「魅力的な高校」と現在の羽後高校を比較・分析した。そして、羽後高校が「魅力的な高校」に近づくためのアイデアを考え、最後にそのアイデアを発表会にてプレゼンした。

生徒らは大学生との関わりを通じて新しい自分を発見することができ、また新たな目標を見つける機会となった。このSFC研修を通じて生徒たちの表情が大きく変わったことが大きな収穫であった。

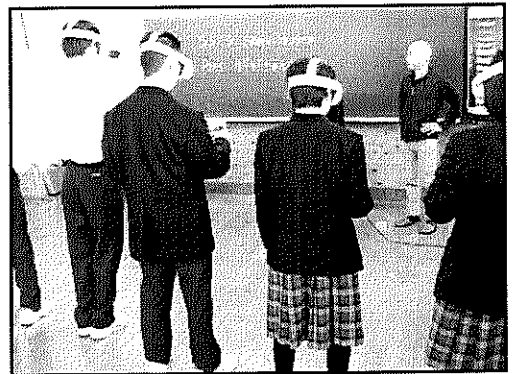
(14) 日 時：11月21日(火) 5・6校時

テーマ：「メタバース深掘り」

講師：デジナーレ情報学研究所

高橋 一俊さん 他2名

内容：クエスト2を利用して実際のメタバース空間にログインし、VRゴーグルを付けてVR体験をした。



(15) 日 時：1月11日(木)～12日(金)

テーマ：「Python講座 画像判別プログラムを作ってみよう」

講師：デジナーレ情報学研究所

内容：・Pythonの基本的な書き方①(print文、変数、演算、コメントの付け方)

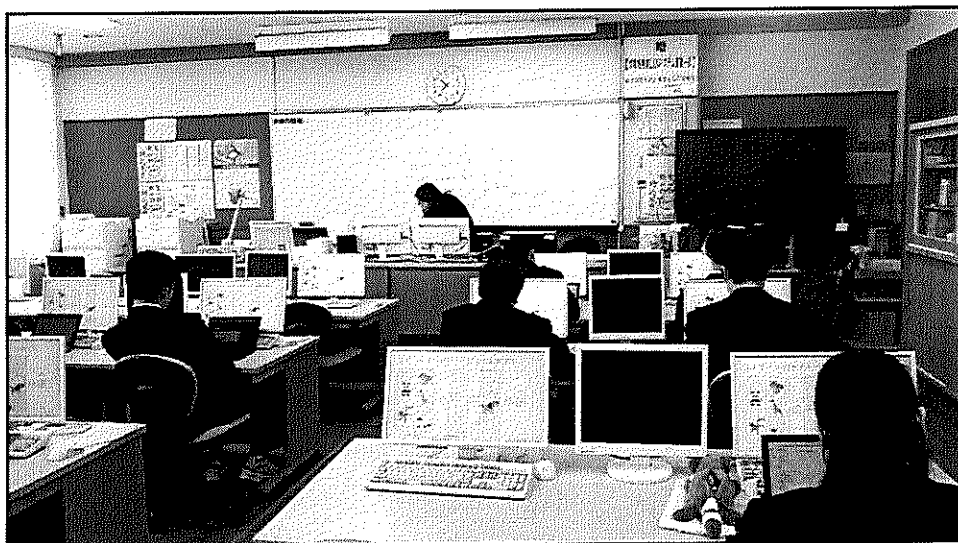
・Pythonの基本的な書き方②(if文、ライブラリなど)…祝日を表示してみる

・Colab Turtleによる画像の描画

・画像判別プログラムの作成①…機械学習について、作成プログラムについて、プログラム作成1とデータ整形

・画像判別プログラムの作成②…プログラム作成2、
学習データ作成とモデル作成

・画像判別プログラムの作成③ …学習データ作成、判別、まとめ



(16) 日 時：1月16日(金) 5・6校時

テーマ：羽後学⑦ 「SFC研修についてのまとめと発表会に向けての準備」

講師：慶應義塾大学SFC 学生3名(来校)、(オンライン参加数名)

内容：春から行ってきた「羽後学」を振り返り、自分自身の変容・変化を客観的に捉えたり、発表する内容を考えた。

(17) 日 時：1月23日(火)

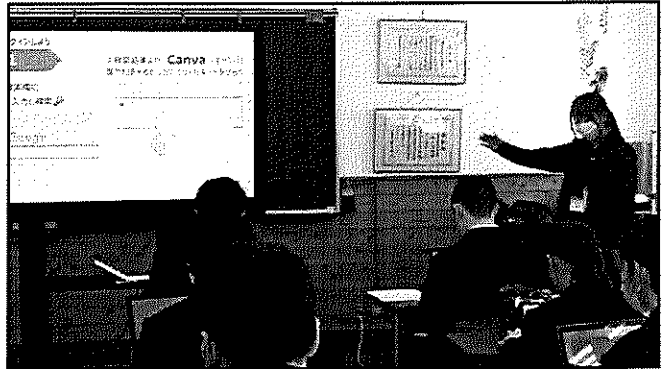
5・6校時

テーマ：「AI画像の生成について」

講師：デジナーレ情報学研究所

高橋 一俊さん 他2名

内容：AIの安全な利用のしかたや概要についての講話と、AI ChatやAI画像などの生成を実際に体験した。



(18) 日 時：1月26日(金) 6校時

テーマ：羽後学⑧「発表会に向けて準備をしよう」

講師：慶應義塾大学SFC 学生2名(来校)、(オンライン参加数名)

内容：前回に引き続き、これまでの活動内容等についてまとめたり、発表する内容について整理したりした。

(19) 日 時：2月2日(金) 5・6校時

テーマ：羽後学⑨「最終発表に向けて、準備をしよう」

講師：慶應義塾大学SFC 学生1名(来校)、(オンライン参加数名)

内容：2月16日に行われる発表会に向けて、これまでの活動について発表しやすいようにスライド等にまとめた。

(20) 日 時：2月16日(金) 5・6校時

テーマ：羽後学⑩「1・2年生による羽後学発表会」

講師：慶應義塾大学SFC

准教授 長谷部葉子先生、

学生6名(来校)

、(オンライン参加数名)

内容：

5校時…2年生が地域課題探求として地域貢献・地域活性化を図るべく事柄について、①会社経営班、②観光班、③福祉班、④食班の4つに分かれて、それぞれスライド等を用いて各班5分程度の発表を行った。



6校時…1年生が「見つめる自分、見つける未来」というテーマで、自分自身の過去から現在、未来へのつながりについて、8グループに分かれて発表した。発表後は、羽後学のサポートをしていただいた慶應義塾大学SFCの大学生や長谷部先生、NPO法人「未来の学校」の方々からコメントもいただいた。



羽後学発表会風景

3 今年度の活動を振り返って

今年度、1年生の「デジタル情報」の講義・講習の中に、新たにVRゴーグルの体験や画像AIの生成の講座を加えた。仮想空間体験に関する講義や実際にVRゴーグルを装着しての体験・実習は生徒らにとって新鮮であり、大なり小なりの刺激を受けたようである。また、画像AIの生成でも講義の後、ソフトを活用して画像をAIで表示させる実習を行った。生徒らは、AI技術のすごさを実感するとともに「活用方法に気をつけたい」というような、将来に向けて前向きな感想を述べていた。

2年目を迎える2年生は、1年次に学習した内容等を文化祭で披露するべく、デジタル探究事業ブースを開設した。久しぶりに一般公開であり、来場者の皆さんに喜んでもらえるような内容として「ドローンの操縦体験」と「VRゴーグルでの仮想空間体験」を行った。自らドローンの操作・操縦のしかた等を調べ、操縦方法のプリントを作成したり、操縦方法を教える練習をしていた。VRゴーグルについては学習不足であったので、活用・体験学習の講習を受け、ゴーグルの操作方法や活用内容のプリントを作成していた。文化祭の公開日には、各コーナーとも数十名の体験参加があり大盛況であった。

また、夏休み中には、地域のパソコン教室やプロバイダ業者、情報通信ネットワークシステム等に関わるの各事業所にて、デジタルインターンシップを実施した。動画配信や有線・無線の情報通信ネットワークシステムの構築などのさまざまな仕事を体験を行い、将来の進路目標の候補の1つとなった生徒もいた。

まだまだ生徒にとって物足りない部分が多々あるように感じた。また、購入した物品の中にはまだ活用していない機器もある。来年度は、このような反省・課題を踏まえて、生徒の興味・関心をより一層高められるように、さまざまな機器を用いて活発に充実した活動ができるように励んでいきたい。

**5 令和5年度
東北六県
商業教育研究大会
(会計分野)**

簿記教育におけるICT活用による学習効果 ～Google classroomの活用を通して～

秋田県立羽後高等学校
教諭 佐藤 悠也

I 研究テーマ設定の経緯

1. 新学習指導要領より

平成高校総合ビジネス科の生徒は、1年生で全員が簿記を学び、2年生になると会計ビジネスコースと情報ビジネスコースに分かれる。会計ビジネスコースでは、日商簿記2級などの資格に挑戦しながら、さらに深く簿記を学ぶ。1年次に全ての生徒が日商簿記3級を受験する。

「簿記とは何か」という基本的なところから、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養っている。簿記で学んだことが、社会で役立つことを生徒に伝えることが大切であると考えた。

しかし近年、簿記を苦手とする生徒が少しずつ増えてきたことから、生徒の実態に応じて授業スタイルを工夫する必要が出てきた。生徒教員の双方で進捗度と苦手分野を把握するためにICTを活用することで、学習への興味関心を高められるのではないかと考えた。その方法として、電子黒板による授業展開や單元ごとの小テスト、振り返りシート、CanDoリスト(自己評価)を導入した。また、ICTを活用して指導と評価の一体化を図れば、学力向上に結びつくのか等を検証する。

2. 研究仮説

- ① ICTを活用することで学習への興味関心を高められるのではないかと考えた。
- ② ICTを活用して指導と評価の一体化を図れば、学力が向上するのではないかと考えた。

1年生で全員が簿記を学び、2年生になると会計ビジネスコースと情報ビジネスコースに分かれる。会計ビジネスコースでは、日商簿記2級などの資格に挑戦しながら、さらに深く簿記を学ぶ。1年次にすべての生徒が日商簿記3級を受験する。教員側も『資格フォローアップ』として、放課後にマンツーマンで指導を行うなど、資格取得にチャレンジする生徒たちをバックアップしている。

しかし、4月と夏休み明けの基礎力診断テストに付随する環境調査の結果をしてみると、家庭学習時間の平均が30分以内の生徒が多く、学習習慣が身に付いていない現状がある。検定試験前の学習に関しては、時間をかけて行う生徒が多くいるが、日常的に学習をしている生徒はかなり少ないと感じている。本校の会計分野の学習は座学中心になりがちであり、その中でも主体的に学習できる場面や互いを高め合いクラス全員が協力して検定合格まで学習しようとする雰囲気を作っていくか検討してきた。簿記や会計の授業において、ICTを活用しながら分かりやすい授業を展開できるよう、また、生徒が主体的に学び合える空間を整備したいと考えた。

II 研究内容・方法 (実施方法)

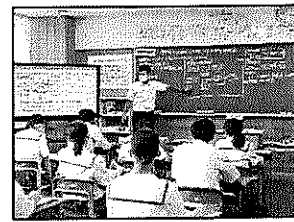
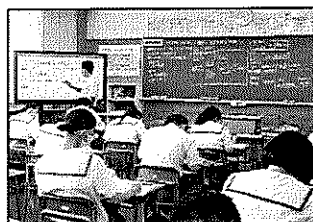
【令和4年度】

(1) 生徒に対するアプローチ

1. 電子黒板を用いた授業展開
2. (1) 授業のCanDoリスト(自己評価シート)
(2) 授業の振り返りシートの導入(感想入力後に教科担任がコメント入力)
3. 小テストの実施(Formやドキュメントなどで作成したものをタブレットで実施)
4. (1) 単語帳によるミニゲーム(仕訳・勘定科目)
(2) 理解度による座席の配置とグループ学習の導入、習熟度別学習の導入
5. アンケートの実施(Google classroom)

III 実践内容

1. 電子黒板による授業展開



2. (1) 授業についての(自己評価シート)の導入 ※一部抜粋

単元	学習目標	理解できたか	どの部分がよく分かったか	どの部分がよく分らなかったか	振り返りシート	感想
簿記の基礎	簿記の基礎知識を学ぶ	<input type="checkbox"/>				
仕訳の基礎	仕訳の基礎知識を学ぶ	<input type="checkbox"/>				
勘定科目	勘定科目の基礎知識を学ぶ	<input type="checkbox"/>				
簿記の応用	簿記の応用知識を学ぶ	<input type="checkbox"/>				
簿記の発展	簿記の発展知識を学ぶ	<input type="checkbox"/>				

單元ごとの目標と各自がどのくらい理解できたかのチェック☑、どの部分がどう理解できたのか、もしくはどの部分がよく分らなかったのかについて、タブレットを使って自由に入力させ、提出させている。授業の中で気づいたこと、理解できたこと、分らなかったことについて書かせて確認することで、授業者側の振り返りやアドバイスを生徒にリアルタイムで伝えることができる。生徒は、この自己評価表を積み重ねていくことで、学んだことが目に見えて実感できるとともに、学びの過程を振り返ることができ、いつ何を学んでどんな気づきがあったのかを確認しながら学習を進めることができる。自己評価については、簡単なチェック項目ではあるが、振

繰り返りの記載内容等を確認し評価にも加えている。

(2) 授業における自己評価シートについて

自己評価シートより

振り返りシートより

生徒の振り返り	先生の振り返り
<input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。 <input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。 <input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。	<input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。 <input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。 <input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。

生徒の振り返り	先生の振り返り
<input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。 <input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。 <input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。	<input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。 <input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。 <input type="checkbox"/> 授業の進め方がよく分かった。 <input type="checkbox"/> 先生の話が面白かった。

引取の際にかかった費用一仕入勘定
仕上の際にかかった費用一発送費等

※振り返りシートから抜粋

単元ごとの目標	振り返り	教師からのコメント
単元1の目標	振り返り内容	教師からのコメント
単元2の目標	振り返り内容	教師からのコメント
単元3の目標	振り返り内容	教師からのコメント
単元4の目標	振り返り内容	教師からのコメント
単元5の目標	振り返り内容	教師からのコメント
単元6の目標	振り返り内容	教師からのコメント
単元7の目標	振り返り内容	教師からのコメント
単元8の目標	振り返り内容	教師からのコメント
単元9の目標	振り返り内容	教師からのコメント
単元10の目標	振り返り内容	教師からのコメント

3. タブレットでの小テストの実施

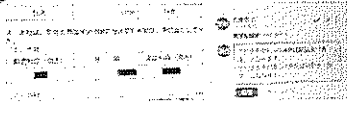
単元ごとに区切りながら紙ベースとタブレットと両方を使って実施している。特に、仕訳については学習の定着を図れるように、工夫しながら実施している。具体的には、タブレットでの小テストに関しては基本的な問題を中心に理解度をしっかりと把握できるような問題を作成し出題している。また、紙ベースでの小テストに関しては、問題集との類似問題を中心に発展的な内容も入れながら出題している。生徒は、単元ごとの振り返りができるとともに、採点が自動で行われることもあり、すぐに点数を確認することができ、その後の解説を通してより深い学びにつながっていると実感できる。例として、商品売買の取引で引取の際に生じた費用を仕入勘定として処理すること（仕入諸掛）の定着度が上がった。



間違えた所を消してやり直している様子



タブレットでの小テスト間違えた所に解説を載せて個別で対応している様子



タブレットで小テストを行っている様子

小テスト実施後の解答の多い問題を再確認している様子

明確チャレンジ「決算処理仕訳」

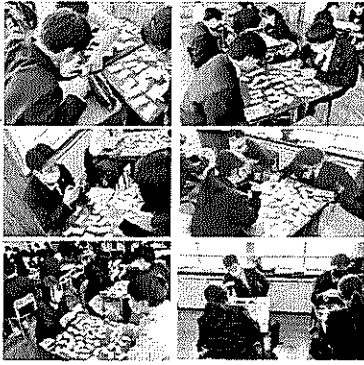
会計期間は毎年4月1日～3月31日までで1年間で決まり、その決算処理事項に対する問題1～9までを算定する。

科目	お取引	貸借
1,000,000	仕	借
2,000,000	借	貸
3,000,000	貸	借
4,000,000	借	貸
5,000,000	貸	借
6,000,000	借	貸
7,000,000	貸	借
8,000,000	借	貸
9,000,000	貸	借
10,000,000	借	貸
11,000,000	貸	借
12,000,000	借	貸
13,000,000	貸	借
14,000,000	借	貸
15,000,000	貸	借
16,000,000	借	貸
17,000,000	貸	借
18,000,000	借	貸
19,000,000	貸	借
20,000,000	借	貸

Google classroom を使用し、授業で学習した内容を振り返るためにフォームを活用して小テストを作成しclassroomで配信した。
 左の図は、実際に配信されるフォームの画面である。用語の問題から計算問題、仕訳問題など授業で学んだことを通してしっかりと身につけているのか確認できるように作成しており、生徒自身は自分のタブレットを使って「いつでも、どこでも、何度でも」問題を解くことが可能である。問題を繰り返して解くことで、生徒は復習学習ができ、知識の定着にもつながる。
 読み書きが苦手な基礎学力の低い生徒にもやり易いことで学習意欲も高まることにつながる。

1. 各問題は事前に読み取り直しと簡単な解説が用意されているので安心して取り組めた。上記の決算処理事項に関する問題を解いた。1. 決算処理事項に関する問題を解いた。
 2. 決算処理事項に関する問題を解いた。1. 決算処理事項に関する問題を解いた。
 3. 決算処理事項に関する問題を解いた。1. 決算処理事項に関する問題を解いた。
 4. 決算処理事項に関する問題を解いた。1. 決算処理事項に関する問題を解いた。
- Google フォームを活用した小テストのメリット
- ・何度も繰り返し学習できる。
 - ・結果・点数がすぐに分かる。
 - ・解答の確認が早い。
 - ・各自制のペースで学習可能であるため、結果が分岐しない。
 - ・生徒自身が理解できなければいつでも、どこでも、何度でも、使用可能である。
 - ・各自制で苦手な分野を把握でき、授業改善につなげることができる。
 - ・ペーパーレスになる。
 - ・生徒自身の苦手分野の範囲に対して何度も挑戦できる。
- Google Classroom
- ・通信機能の不足が出る小テストや模試の活用はできない。生徒の出欠も確認できない。
 - ・Eラーニングによる小テストでは、添削問題であれば添削はできるが、**拡張問題は1行で答えられる問題しか出題できない。**
 - ・Eラーニングで作成している問題もGoogle Classroomで配信する必要がある。授業中の時間を有効活用して問題を配信することができた。

4. (1) グループ学習【単語帳によるミニゲーム】
(仕訳問題・勘定科目)の様子



※単語帳の一部抜粋

借入金返済	
取引銀行から750,000円を振り入れていたが、支払期日が到来したため、元金合計を当座預金から返した。なお、借入れによる金利率は年3%、借入総額当座預金から引かれていた。	
借入金：750,000 支払利息：9,375	当座預金：759,375
借入金の支払→借入金(負債)の減少→借方 利息の発生→支払利息(費用)の増加→借方 当座預金から返済→当座預金(資産)の減少→貸方 ≠750,000円×0.03×5÷12=9,375円	

①単語帳を並べる→②じゃんけんをして勝った人が問題を選んで出題→③回答が正解ならそのカードを褒める→④交互に出題→⑤強弱枚数が多いた方が勝ち→⑥勝ち残りのローテーション(負けたら移動)

(2) 理解度による座席の配置とグループ学習の導入

クラスの座席を授業担当者が決定し、簡易的な授業においては仲間同士で学び合いができる環境整備を行った。学習時期としては、2学期中間考査の成績が確定した時点で、クラスを3グループに編成した。学習到達度の早い生徒が、理解するまでに時間を要する生徒に教えていく形式となり、クラス内で学び合う雰囲気を作ることを狙いとした。座席の配置の際に配慮した点は、1グループに2人の先生役を設けたこと、前後だけで割り振るだけでなく、前後の生徒生活での様子も踏まえたグループ編成にしたことである。座席図の編成した生徒2人がリーダーとなって授業を進めた。リーダーになった生徒は、その問題を分かりやすく伝えるためにより理解を深め、しっかりと相手に伝えることできるように理解が深まると考えた。

グループ学習の様子



5	80点以上	17	50点以下	24	50点以下	18	50点以下	3	80点以上	15	60点以下
28	50点以下	8	80点以上	2	90点以上	9	70点以上	16	60点以下	4	80点以上
27	50点以下	20	50点以下	25	50点以下	26	50点以下	19	50点以下	12	70点以上
7	90点以上	6	80点以上	10	70点以上	7	80点以下	11	70点以上	29	50点以下
		13	70点以下	27	50点以下	23	50点以下				

教 座

「簿記」の授業における座席表。左の番号→中間考査での簿記の順位
右の番号→中間考査での簿記の得点 (0点以上、以下)

IV. 研究考察

ICTを活用することによって得られる学習効果について、Google classroomを活用した授業実践の研究考察について2つのアンケート結果からまとめる。

1. 評価

(1) 授業アンケート①より

本校では1学期末と2学期末に授業アンケートを実施している。1年3組「簿記」授業アンケートの結果は次の通りであった。

授業アンケート①		1学期 第1回 平均値	2学期 第2回 平均値	
No	質問項目			
1	電子黒板を使用した授業展開はどうでしたか。 1: 分かりにくい 2: あまり分からない 3: 分かりやすい 4: とても分かりやすい	3.45	3.83	+0.38
2	ワークシートを使用している授業はどうでしたか。 1: 分かりにくい 2: あまり分からない 3: 分かりやすい 4: とても分かりやすい	3.55	3.72	+0.17
3	勘定科目を記入した単語帳を使用してはどうでしたか。 1: 良くない 2: あまり良くない 3: 良かった 4: とても良かった	3.55	3.79	+0.24
4	授業中に行ったグループ活動はどうでしたか。 1: 理解できなかった 2: あまり理解できなかった 3: 理解できた 4: よく理解できた	3.52	3.72	+0.20
5	タブレットを使用して単元ごとに小テストを行いましたかどうでしたか。 1: 良くない 2: あまり良くない 3: 良かった 4: とても良かった	3.55	3.79	+0.24
6	タブレットを使用した振り返りシート (CanDoリスト) はうまく活用できていると思いますか。 1: そう思わない 2: あまりそう思わない 3: ないないと思う 4: 大いに思う	3.52	3.83	+0.31

図1・5・6の結果から、生徒はICTを活用した授業に対して抵抗なく取り組むことができ、学習への興味関心を高めることにつながったのではないかと推察される。

(2) 授業アンケート②「最終評価・習熟度別学習 (クラス分け) について」より

授業アンケート②		4	3	2	1	平均値
No	質問項目					
1	1年間を通して簿記の内容は理解できましたか。 1: 理解できなかった 2: あまり理解できなかった 3: 理解できた 4: とても理解できた	11	18	0	0	3.38
2	簿記の内容をどこまで理解できましたか。 1: 全く理解できなかった 2: 概算記入まで理解できた 3: 仕訳まで理解できた 4: 決算まで理解できた	19	6	4	0	3.52
3	タブレットを利用して学習した小テストは内容を理解するのに役立ちましたか。 1: 全く役立たなかった 2: あまり役立たなかった 3: ある程度役立った 4: かなり役立った	20	9	0	0	3.69
4	タブレットの他にプリント(紙ベース)を利用して行った小テストは内容を理解するのに役立ちましたか。 1: 全く役立たなかった 2: あまり役立たなかった 3: ある程度役立った 4: かなり役立った	21	8	0	0	3.72
5	他の科目に比べて簿記はどんな科目でしたか。 1: 全く理解できない科目だった 2: あまり理解できない科目だった 3: 理解しやすい科目だった 4: 得意科目になった	13	12	4	0	3.21
6	あなたにとって簿記は意欲的(主体的)に取り組める科目でしたか。 1: 全く意欲的でなかった 2: あまり取り組めなかった 3: 意欲的に取り組めた 4: とても意欲的に取り組めた	21	8	0	0	3.72

授業アンケート②		4	3	2	1	平均値
No	質問項目					
1	習熟度別に応じてクラスを分けて授業を展開しましたがどうでしたか。 1: 良くなかった 2: あまり良くなかった 3: 良かった 4: とても良かった	24	5	0	0	3.83
2	習熟度別にして授業を展開したことで理解度は変わりましたか。 1: 変わらなかった 2: 少し理解できた 3: 理解できた 4: とてもよく理解できた	21	8	0	0	3.72
3	習熟度別学習を行ったことで主体的に学習に取り組むことにつながったと思いますか。 1: 変わらない 2: あまり思わない 3: そう思う 4: とても思う	25	4	0	0	3.86

【自由記述欄の主な意見】

●グループ学習について

一人で考えて理解するのに時間がかかってしまっていたところも、グループになって友達や先生に教えてもらったことで理解を深めることができて良かった。

●習熟度別学習について

・クラスを分けて授業を行ったことで、分からないところはお互いに教え合って、できるようになったときに自信に繋がった。

●ICT活用について

- ・タブレットを使うことで自分の成長具合を肌で感じることができたので良かった。
- ・タブレットでの小テストは何度も繰り返しできるので自分の理解度を把握できた。
- ・週末課題などをタブレットの小テストを何度も繰り返し学習したことで理解もスムーズにできたと思う。自分が理解出来るまで何度もできるところが良かった。
- ・振り返りシートでは分からないところを先生に質問という形で聞いて良かった。
- ・CanDoリストは自分で何かできたのかを把握することができたので良かった。

●単語帳について

- ・最初は勘定科目を覚えるのが大変だったけど、単語帳を繰り返し使ったことで覚えやすく、やっていくうちに楽しかった。
- ・単語帳を使ったミニゲームが楽しく勘定科目を覚えられたので良かった。

●全体を通して

- ・全体を通して、自分の苦手な所が解けるようになってきて楽しく思うようになった。
- ・この一年間を通して最初の頃よりも思った以上に成長できたと感じた。
- ・簿記を通して、できることが増えて楽しく簿記をすることができたので良かった。
- ・最初、簿記は苦手だったけども、授業を重ねていくうちに簿記が好きになった。
- ・苦手科目だった簿記が今では得意科目にまで伸ばすことができた。

2 研究の仮説

- ① ICTを活用することで学習への興味関心を高められるのではないか。
- ② ICTを活用して指導と評価の一体化を図れば、学力が向上するのではないか。

(1) 学習への興味関心について

→ P22の授業アンケート①より

問1 電子黒板での授業展開 問5 タブレットを使用した小テストの実施

問6 タブレットを使用した振り返りシートの活用

以上の結果より、ICTを活用したことで学習への興味関心が向上したといえる。

(2) 学力の向上について

→ 授業アンケート②より、タブレットを使用した小テストや振り返りシートなどは内容を理解するのに有効であったといえる。

また、日商簿記検定の合格率からも、最近3カ年の合格率から比較すると、合格率が大きく増加したことがわかる。

※比較する生徒が異なるため、合格率が上がった要因を断定することはできないが、教師による一斉授業だけでなく、ICTの活用によって、生徒の知識技能は定着し、資格試験にも十分に有効であることが分かった。

前年度までの反省を踏まえ、4年度の取り組みでは、ICTを活用して学習プリントや小テストを実施、振り返りシートなどを活用したことで、一定の成果が表れたと考えている。

タブレットでの小テストでは、生徒の進捗状況や学習状況、理解度を把握するのに有効であり、授業改善にも繋がると感じた。また、振り返りシートでは、生徒の振り返りを蓄積することができるとともに、生徒自身も学習の積み重ねを肌で感じることもできたのではないかと感じた。生徒からの感想にもあったように、「タブレットを利用して学習した小テストは内容を理解するのに役立った」と答えた生徒が全体を占めている。

授業アンケート②より「あなたにとって簿記は意欲的(主体的)に取り組める科目でしたか」という質問に対して、多くの生徒が「とても意欲的に取り組めた」と回答している。

今後さらに、生徒の興味関心を高めながら、「分かる授業づくり」に取り組んでいきたい。

【3】 日商簿記検定3級の合格率から ～日商簿記検定3級合格率の推移～

令和2年度	令和3年度	令和4年度
17.2% (5名/29名)	33.3% (9名/28名)	44.8% (13名/29名)
1年次全員受験 ※2月受験	1年次全員受験 ※2月受験	1年次全員受験 ※2月受験

平成高校では、令和2年度より1学年全員が日商簿記3級を受験している。最近3カ年の合格率を比較すると、合格率が大きく増加した。比較する生徒が異なるため、合格率が上がった要因を断定することは出来ないが、教師による一斉授業だけでなく、ICTの活用方法によっては、生徒の知識技能は定着し、資格試験にも十分に有効であることが分かった。

V まとめ

【実践後の指導者の感想】

- ・Formsによる小テストでは、選択問題であれば簡単にできるが、仕訳問題は1行で答えられる問題しか出題できないため、Wordで作成している問題をGoogleドキュメントにコピーすることで2行以上の仕訳を伴う問題をテストすることができた。
- ・Formsで「送信ボタン」を押したがClassroomで「完了ボタン」を押し忘れて未提出になってしまう生徒がいた。
- ・CanDoリストと振り返りシートに関しては、紛失してしまう心配もなく、見返すことができること、教員が一人一人の振り返りを確認し、アドバイスやコメントをつけて評価することができた。→ 一人ひとりにコメントを入力するのに時間がかかる
- ・振り返りシートは、Formsを用いて行うことで結果がすぐに把握でき、時間もかからずに有効であると感じた。
- ・授業中に手を上げて発表できない生徒に関しては、振り返りシートに質問を書き、後日教えることができる点において有効であったと考える。
- ・仕訳問題を生徒が答える際に、解答のバリエーションをより多く作らなければ、正解しているのにもかかわらず不正解として処理されてしまう点がやや難点であった。
例：平成株式会社は商品¥75,000を掛けで仕入れた。
解答：(仕入) 75,000 (買掛金) 75,000

※上記の問題に関しては()をつけて入力せず、勘定科目と金額をスペースなく入力するようにドキュメント等を使用して入力の練習を行った。

→ 仕入75,000/買掛金75,000 ※勘定科目と金額のスペースを設けず、/で区切ること。

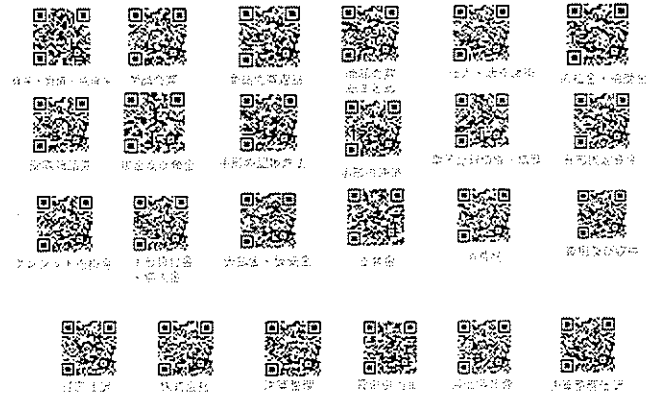
・以上のことによりタブレットを使つての小テストの実施方法については今後も検討を重ね、より生徒と教員がお互いに分かりやすいものを作成していくことが大切であると改めて感じた。

VI おわりに

私自身の今までの簿記の指導を振り返ると、教科書を中心として解き方や考え方を指導し、問題集や模擬問題を通して理解を深めさせることが主な指導方法であった。この方法では教員からの一方的な指導になりやすく、生徒自ら学びを深める場面が少ないことが反省点であった。また、主体的に学びを深めたい生徒にとっても有効な授業とは言えず、結果的に生徒の学習意欲の低下を招くこともあったと感じている。この反省から、検定試験形式ではなく、生徒自身が主体的かつ協働的に学習を進められる手法について試行錯誤を繰り返してきた結果、ICTを活用した授業実践で生徒の興味関心を高め、指導と評価の一体化を図ることができれば学力向上に繋がるのではないかと考えた。アンケート結果からも生徒との学びに対する意識と理解の向上が図れたのではないかと感じており、有効であったと考える。

今後もさらに授業改善、授業力向上のため研修を深める決意をするとともに、本研究を進めるにあたって、ご協力ご助言いただいたすべての方々へ感謝を申し上げ、結びと致します。

小テストQRコード一覧



参考文献・参考資料

- ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 商業編」文部科学省
- ・Google Classroom利用マニュアル【教員編】第3刷 徳教大学
- ・「日商簿記3級・合格対策シリーズ テキスト・問題集」大原出版
- ・「簿記1級 簿記」東京法令出版

編集後記

令和5年度、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ「5類」に見直されました。これを契機にマスクなしで外出する人の姿も多く見られるようになり、全国各地のイベント・行事も4年ぶりに再開されることが多くなりました。我々が参加する協議会や研修・講習会等も対面型の開催になってきましたが、便宜的なことからオンラインによるものも同時に行われるようにもなりました。

ICT機器（クロムブックや電子黒板等）については、何の戸惑いもなく、授業等で使用されるようになりました。どの教科・科目でも積極的に活用するようになり、生徒らも十分に使いこなせるまでになってきました。今年度、話題になった生成AIについては、活用途上の面もありますが、前向きに活用方法等を探っていかなければならないかと思えます。

最後に、この「研修集録」が今後の教育活動の一助となれば幸いです。

令和5年度 研修図書・情報部

令和5年度

研修集録

発行 令和6年3月
秋田県立羽後高等学校